

令和2年度第2回犬山市高齢者地域ケア・生活支援推進協議会次第

日時：令和3年3月22日（月）
午後1時30分から午後3時まで
場所：犬山市役所2階205会議室

1. あいさつ

2. 協議事項

(1) 犬山市高齢者移動支援事業について（資料1）

(2) 犬山市生活支援体制整備事業の進捗状況について（資料2）（資料3）

3. その他

高齢者移動支援ニーズ調査 について

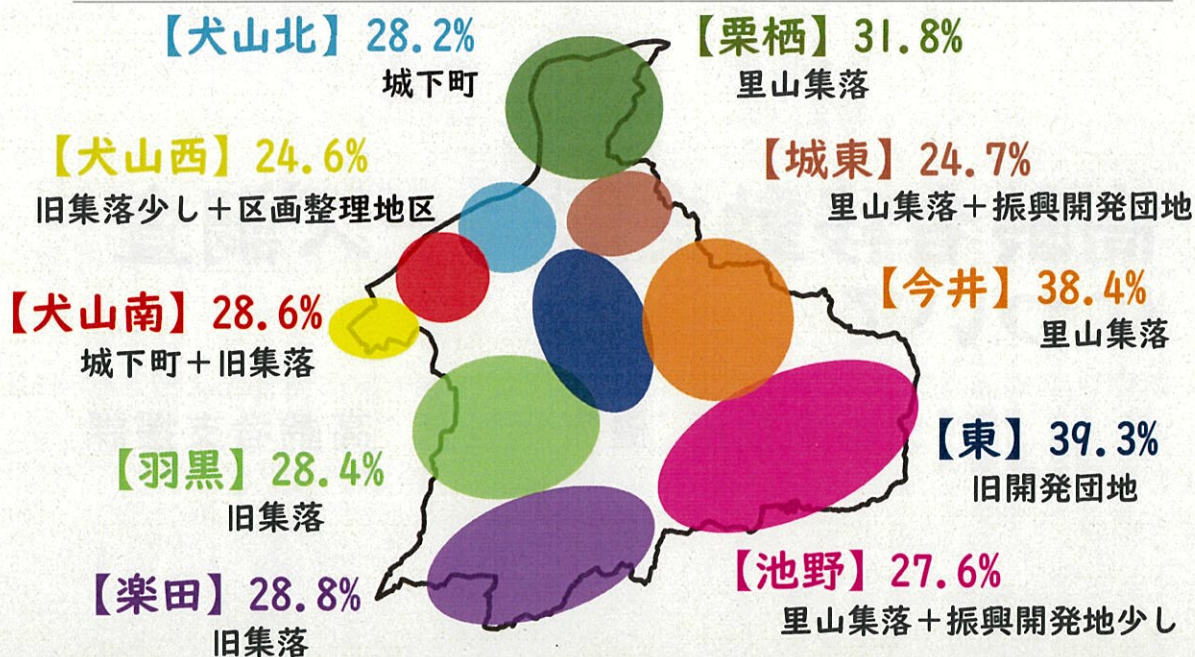
犬山市役所 健康福祉部 高齢者支援課

1

回答者について

2

小学校区ごとの特性+高齢化率



3

全体の回収率 73.2%

◆調査対象：20歳以上の市民

*令和2年4月1日時点の年齢

*要介護3～5の方を除く

◆配付数：4,000通（無作為抽出）

◆調査期間：令和2年11月2日～令和2年11月27日

◇回収数：2,928通

インターネット333通、郵送2,595通

PI

4

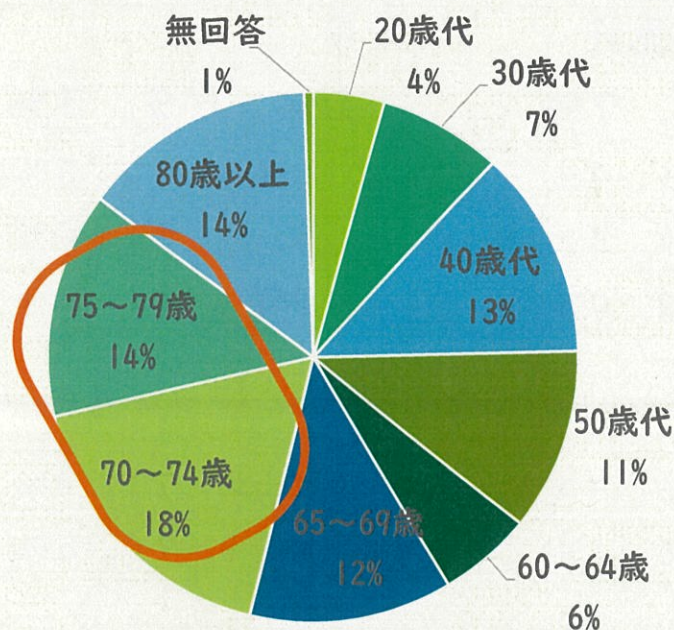
地区別回収率

小学校区	回収率	小学校区	回収率
犬山北	69.4%	羽黒	72.4%
犬山南	70.4%	楽田	71.4%
城東	80.2%	池野	68.5%
今井	71.0%	東	62.5%
栗栖	73.7%	犬山西	64.4%

追加集計

5

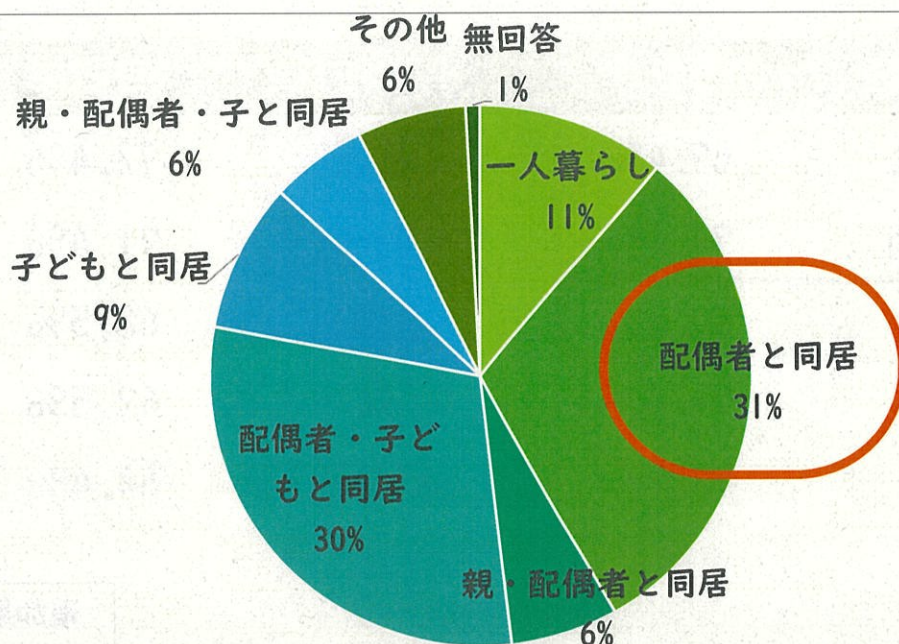
回答者の年齢



P14

6

回答者の家族構成



P17

7

普通自動車免許・車の所有率

◇普通自動車免許

全体 79.7%

今井 91.9%

栗栖 84.3%

池野 83.0%

⋮

犬山南 76.3%

犬山北 76.1%

◇車

全体 75.3%

今井 90.3%

東 81.9%

池野 81.3%

⋮

犬山北 71.2%

犬山南 70.5%

P18,19

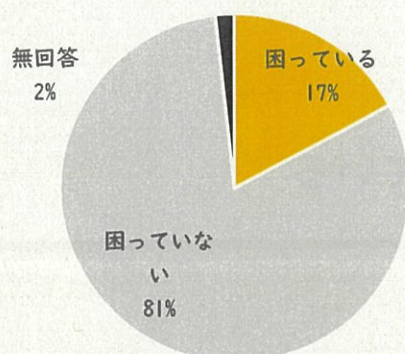
8

困っている人・利用したい人について

9

困っている人の割合

◇全体 17.1% (20～64歳 12.7% 65歳以上 20.1%)



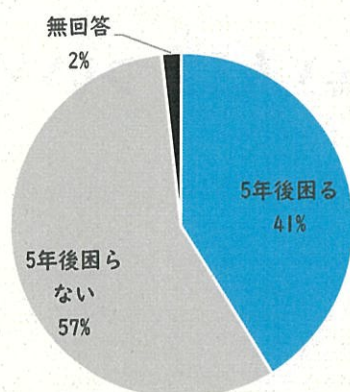
- ・ 困っている人が思った以上に少なかった
- ・ 池野地区は20～64歳で困っている人が多い
- ・ 今井地区は65歳以上の困っている人が少ない

P21,130

10

5年後困ると思う人の割合

◇全体 41.3% (20～64歳 16.1% 65歳以上 58.9%)



- ・ 高齢者における5年後の不安感が大きい
- ・ 20～64歳においては5年後の不安感が大幅に増える地域がある一方で減る地域もある

P25, I32

11

利用したい人の割合

◇全体 54.5%

20～64歳 50.1%

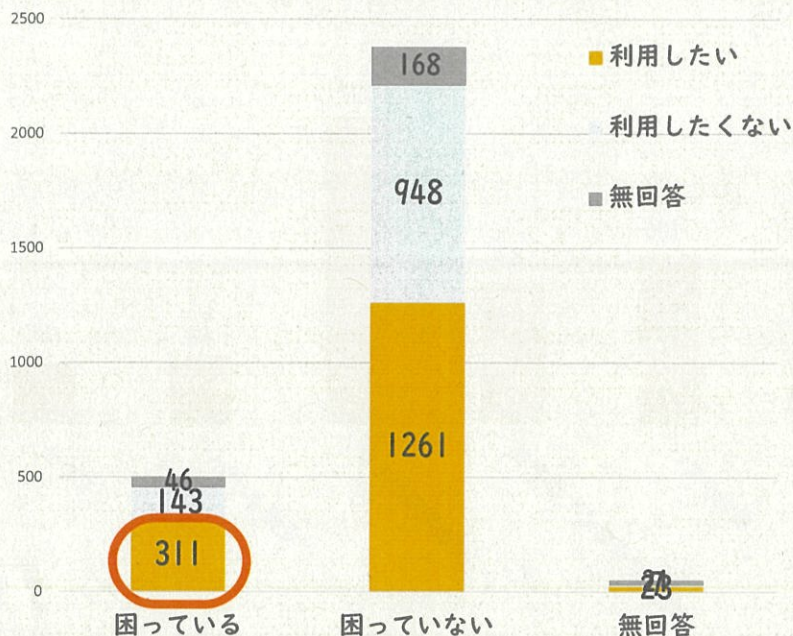
65歳以上 57.6%

- ・ 半数以上が利用したいと思っている

P30, I34

12

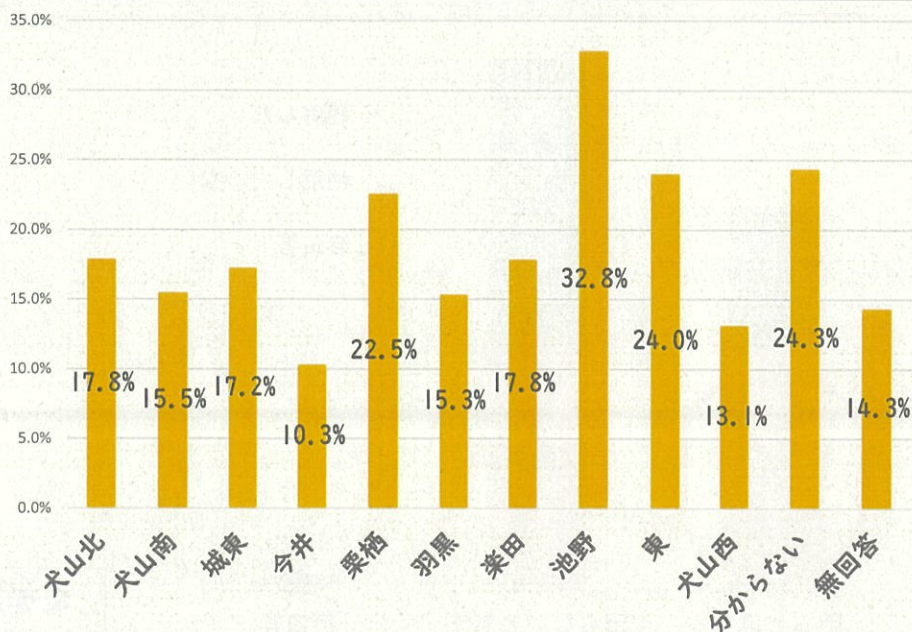
現在の困り感と利用希望



追加集計

13

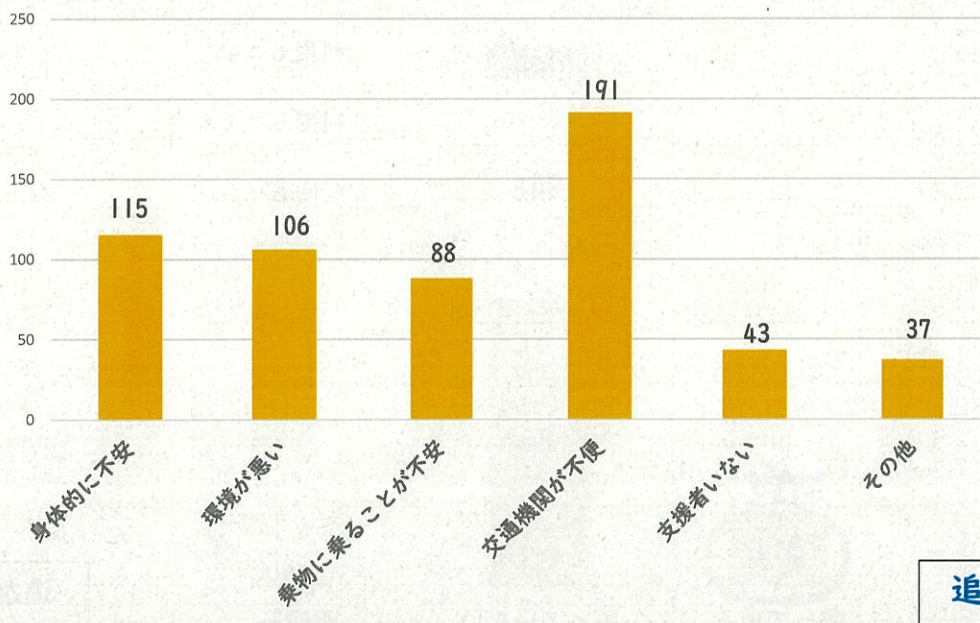
(各地区における回答者のうち) 困っている・利用したいと回答した人の割合



追加集計

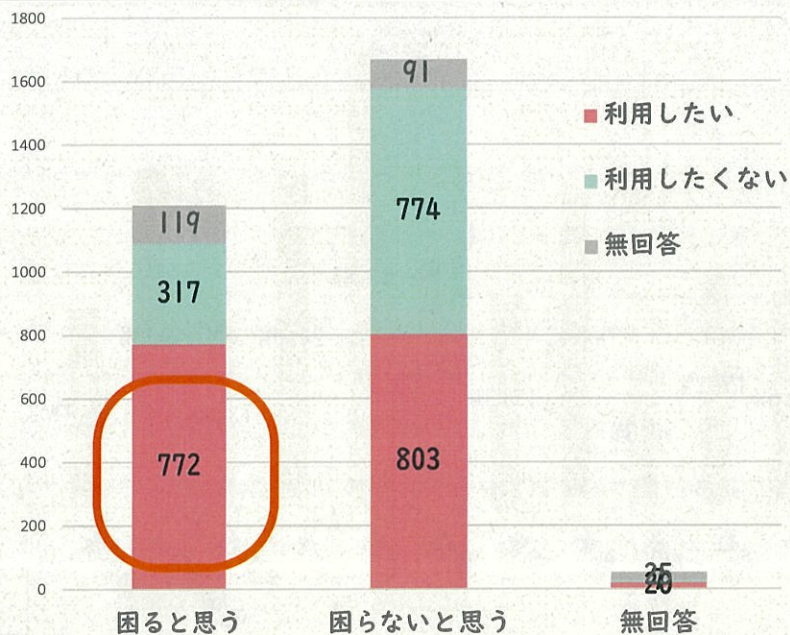
14

311人の人はどんな理由を選んだ？



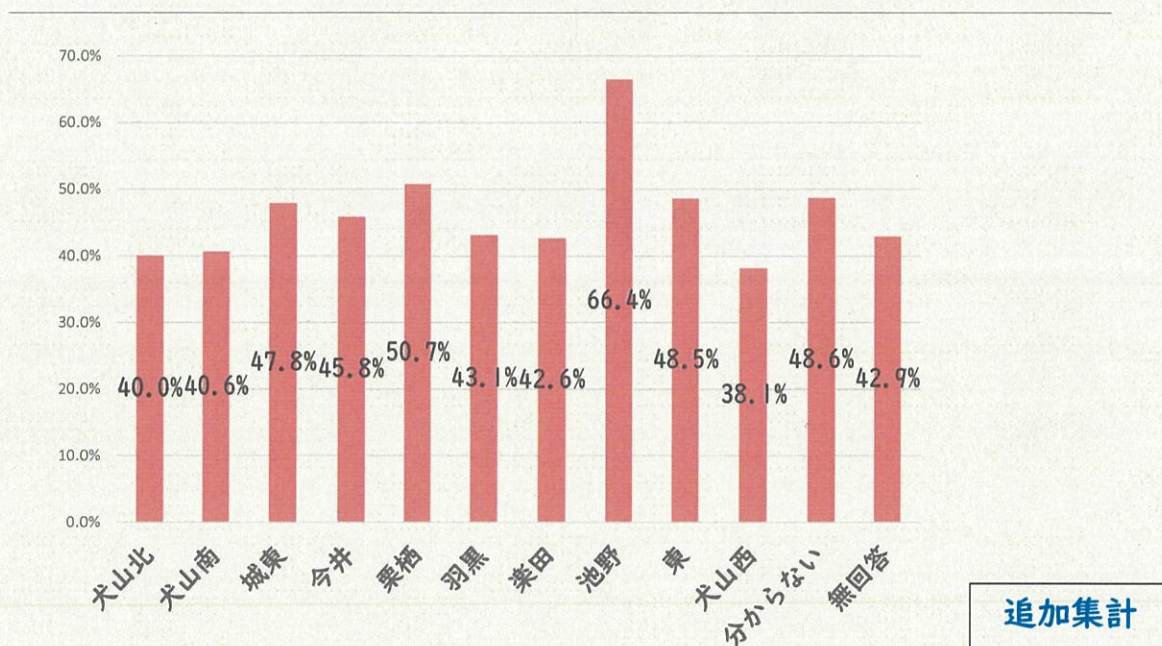
15

5年後の困り感と利用希望



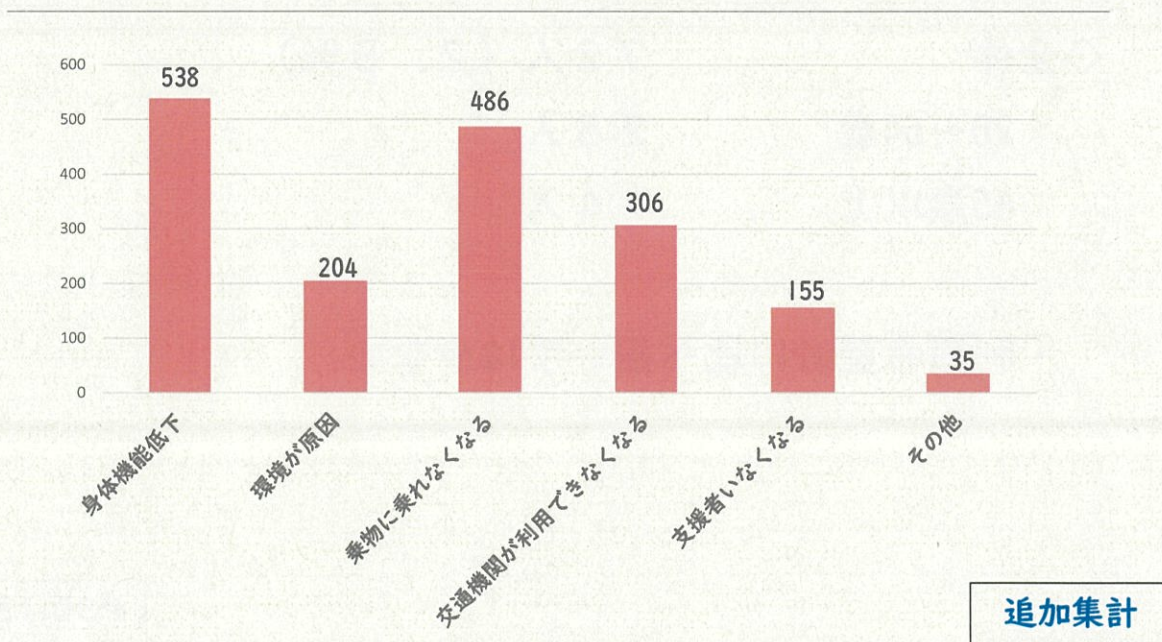
16

(各地区における回答者のうち) 5年後困ると思う・利用したいと回答した人の割合



17

772人の人はどんな理由を選んだ?



18

担い手について

19

ドライバーとして参加できる

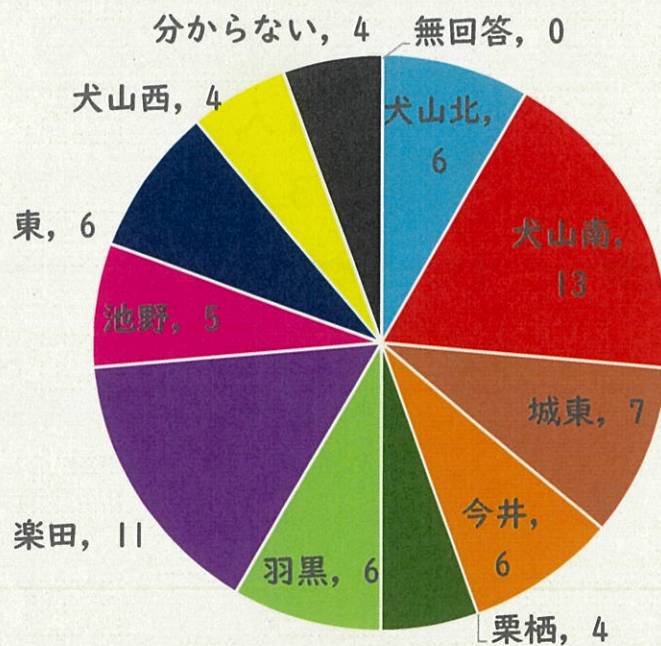
◇全体	72人 (2.5%)
20～64歳	28人
65歳以上	44人

- ・ 利用希望者に比べ担い手は少ない

P30, I35

20

ドライバーとして参加できる72人



P30

21

条件によっては参加できる

◇全体	531人 (18.1%)
・謝礼金	187人
・ガソリン代実費	250人
・時間や行先が合えば	354人
・知り合いのみ	190人
・知り合い以外	25人
・車の準備	116人
・その他	54人

(複数回答)

P30,31

22

参加できない

◇全体	2, 137人 (73.0%)	
}	・ 運転不可	546人
	・ 時間がない	533人
	・ 乗せるのが不安	1, 127人
	・ 保険の問題	353人
	・ その他	274人

(複数回答)

P30,32

23

考 察

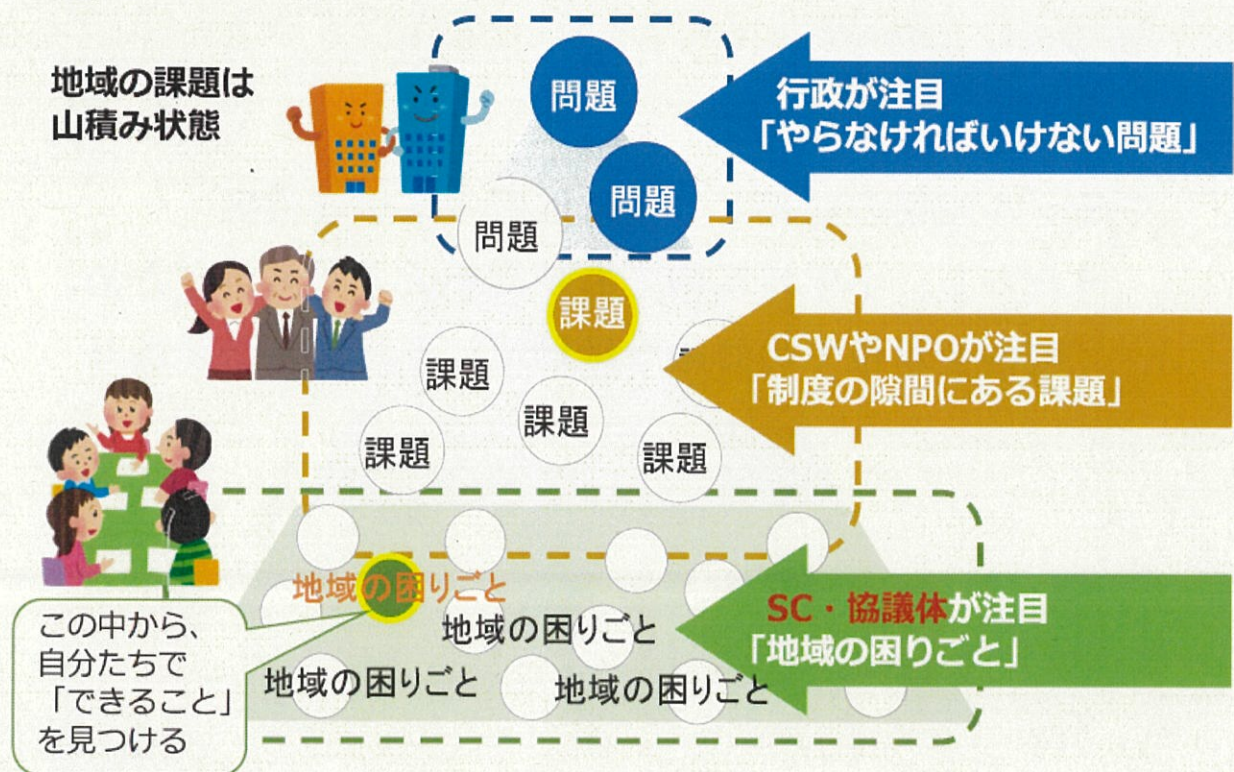
24

まとめ・考察

- ◇困っている人は意外に少ない
- ◇一方で、5年後の不安は大きい
→今すぐではなく、将来的な移動の不安解消に向け
事業を検討していく必要あり
- ◇困っていないが利用したいと思っている人もいる
→本当に必要な人にどのように届けるかを検討する
必要あり
- ◇既存の交通施策とのすみ分けが必要

PI36

25



26

まとめ・考察

- ◇担い手はかなり少ないが一定数はいる
 - 担い手の意見を聞くことはできないか
- ◇ニーズに対応するだけの担い手の確保が必要
 - そのためには、ドライバーの不安解消が必須
- ◇ドライバーの不安は少なくない
 - 住民以外のドライバーも検討する必要あり

PI36

27

まとめ・考察

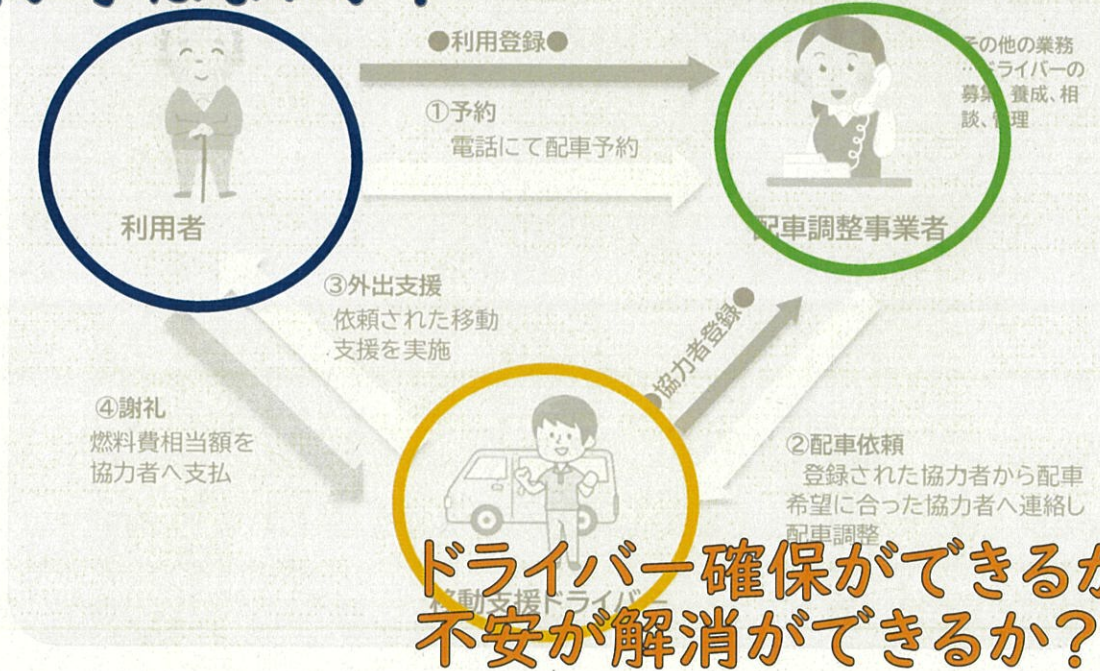
- ◇モデル地区の候補としては池野・東小学校区
 - ただし、小学校区内でも特徴が大きくちがうため、町内会単位での詳細な地域情報を集める必要あり

PI36

28

身体機能低下に対する不安に対し何か手はないか？

本当に必要な人の選別ができるか？



愛知県高齢者移動支援事業

◆移動支援事業検討部会スケジュール

愛知県モデル事業		内 容(案)
愛知県モデル事業	令和2年	第1回 アンケート内容検討
		第2回 アンケート集計結果分析
		第1回 モデル地区選定・事業内容検討
	令和3年	第2回 モデル地区実施状況・課題分析
		第3回 次年度モデル地区の選定
		第1回 モデル地区事業内容検討
	令和4年	第2回 モデル地区実施状況・課題分析
		第3回 モデル事業終了後の事業展開検討

※各年度末に、高齢者地域ケア・生活支援推進協議会にて進捗報告

地域づくり、ささえあい活動等の

ホームページをご覧ください

各地区の協議体 や 生活支援コーディネーター の動きがわかる

トップ 事業案内 犬山市全域 犬山北 犬山南 城東 羽黒・池野 楽田

年度別アーカイブ

平成31年度

2月 1月 12月 11月 10月
9月 8月 7月 6月 5月 4月

平成30年度

3月 2月 1月 12月 11月
10月 9月 8月 7月 6月 5月
4月

平成29年度

3月 2月 1月



『犬山市生活支援体制整備事業』
or
『犬山市生活支援コーディネーター』
で検索

つくし会 簡単に出来る小物作り

令和2年2月25日(火)

つどいの場

活動内容

協議体
(26)

つどいの場
(15)

生活支援
(6)



・毎月第2・第4金曜日 13:30~16:00「羽黒老人福祉センター」で、ワイガヤで楽しく小物作りを行っています。夏休みには子供たちに参加してもらって、多世代交流をしています。この日は、ヨーグルトのバックで、小物入れを作っていました。ティータイムもあり、おしゃべりし楽しんでいひと時です。手先業なので認知症予防になってます。

高齢者のつどいの場、ささえあいの活動など、生活支援コーディネーターが最新情報をお伝えします！

犬山市高齢者生きがい活動促進事業

「いぬやまコミュニティ農園」に参加しませんか？



♡ 誰でもご参加いただけます。



農園の場所：犬山市楽田三ツ塚 18-30

みんなでづくり、みんなで楽しみ

みんなで健康になる!幸せになる!!

そんな農業を通じた

新しい形のコミュニティづくりを目指します

- Q:お問い合わせの詳細は? A:090-9940-2939まで。
Q:畑仕事は初めてですが? A:管理人が決まった日程でいて、教えてくれます。
Q:農具をもっていません。 A:耕運機や鍬などお貸しできます。
Q:高齢なので、少し不安です。 A:ご自身のペースで無理なくどうぞ。
トイレも休憩スペースもあります。

その他、農園についてのご相談、お問い合わせは

090-9940-2939

090-4215-6976

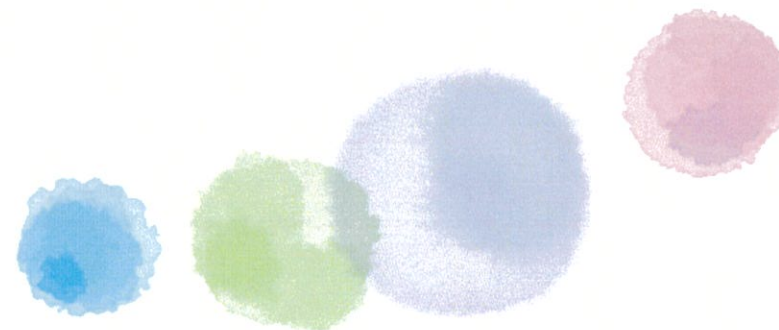
♥「いぬやまコミュニティ農園」は NPO 法人シェイクハンスが運営しています。


《学習支援:寺子屋シェイクハンス、事務所:犬山市東古 70-2

コミュニティカフェ チャンティ内、TL:0568-61-0971》

犬山市生活支援体制整備事業の進捗

令和 3年 3月 22日



- 
- ・各地区2層協議体の状況
 - ・全体としての取り組み状況
 - ・次年度に向けて

犬山北地区 協議体



- 開催日 9月24日、10月22日、11月26日、12月24日
今年度 4回開催
- 参加メンバー : 地域住民、民生児童委員、老人クラブ会員、西コミュニティ役員、
社会福祉協議会職員、ケアマネジャー 等



犬山北地区協議体 での取り組み

- ・ 高齢者あんしん相談センター受託法人変更に伴う担当者変更のため、これまでの振り返り&制度説明についてレクチャー
- ・ 丸山地区でささえあい活動を立ち上げたい
 - ↓
 - 西楽田団地の「ささえ愛の会」視察を計画
ワン丸君バスを利用して、協議体メンバー全員で西楽田団地へ訪問を予定
 - ↓
 - 緊急事態宣言に伴い保留、次年度へ持ち越し
- ・ 民生児童委員、老人クラブ連合会、西コミュニティ、北小学校PTA等の情報共有

犬山南地区 協議体



- 開催日 10月26日、11月30日、12月22日、1月15日、2月26日、3月12日
今年度 6回開催
- 参加メンバー : 地域住民、民生児童委員、シニアクラブ発起人、西コミュニティ役員、
高齢者サロン世話人、等



犬山南地区協議体 での取り組み

- ・新しい生活様式に合わせて再開
新規参加者もあり、「協議体の手引き」を使用してレクチャー
- ・白帝団地でシニアクラブの立ち上げ準備
↓
集会所、老人クラブなどが無い団地での活動について
自治会と win=win の関係性づくり
(広報誌の配布、公園清掃、街頭安全活動など)
- ・子供の登下校、高齢者の散歩時、トイレ協力者の資源マップを作製中
- ・コロナ禍での協議体開催方法を模索：SNS、グループLINE活用

城東地区 協議体



- 開催日 10月22日、12月1日
今年度 2回開催
- 参加メンバー : 地域住民、高齢者サロン世話人、市民協働プラザ関係者、
市民健康館保健師 等



城東地区協議体 での取り組み

- ・ 地域情報の共有
- ・ 地元住民のニーズ（惣菜が欲しい）に合わせ、移動販売業者と弁当業者をマッチング

羽黒・池野地区 協議体



- 開催日 9月19日、10月17日、11月21日、12月19日
今年度 4回開催
- 参加メンバー : 地域住民、民生児童委員、高齢者サロン世話人、民間企業、
介護事業者、等



羽黒・池野地区協議体 での取り組み

- ・ 地域の高齢者サロン、体操教室等は軒並み活動自粛中
→ あんしん相談センター & 2層コーディネーターであんしんだより配布
- ・ シオン株式会社より「ちょこパト防犯ストラップ」の提供を受ける
→ 地域の高齢者宅に配布
尾北ホームニュースにも掲載
- ・ 子供の登下校、高齢者の散歩時のトイレ問題
→ 入鹿池の観光用トイレ問題に進展
2層コーディネーターが現地調査、協力店舗さがし



・入鹿池のトイレ問題（観光課題）について取材



・シオン株式会社とのコラボ

楽田地区 協議体



- 開催日 10月16日、11月30日、12月18日
今年度 3回開催
- 参加メンバー : 地域住民、民生児童委員、高齢者サロン世話人、
楽田地区コミュニティ会員 等



楽田地区協議体 での取り組み

- ・ 楽田地区コミュニティの活動内容を共有
→ コロナ禍でもできることを考えて実施

- ・ つつじヶ丘団地の住民活動について
→ 集会所のイルミネーション
住民同士での移動支援サービス方法の模索
羽黒地区の先行事例を視察予定



全体としての取り組み

- ①集いの場 マップを更新、アップデート
- ②犬山市生活支援体制整備事業のホームページ 公開
- ③親和領域との連携
- ④協議体の成長

①集いの場 マップを更新、アップデート



■ 高齢者・介護ケア	■ 障がい者・集いの場	■ 福祉・福祉サービス
<p>① 犬山駅前集合</p> <p>② 高齢者福祉センター</p> <p>③ 高齢者福祉センター</p> <p>④ 若くは若</p> <p>⑤ フェアウェイ</p> <p>⑥ 人権啓発</p> <p>⑦ 25才 若くは若</p> <p>⑧ 若くは若</p>	<p>① 福祉・福祉サービス</p> <p>② 福祉・福祉サービス</p> <p>③ 福祉・福祉サービス</p> <p>④ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑤ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑥ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑦ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑧ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑨ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑩ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑪ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑫ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑬ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑭ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑮ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑯ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑰ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑱ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑲ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑳ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉑ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉒ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉓ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉔ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉕ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉖ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉗ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉘ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉙ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉚ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉛ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉜ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉝ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉞ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉟ 福祉・福祉サービス</p> <p>㊱ 福祉・福祉サービス</p> <p>㊲ 福祉・福祉サービス</p> <p>㊳ 福祉・福祉サービス</p> <p>㊴ 福祉・福祉サービス</p> <p>㊵ 福祉・福祉サービス</p> <p>㊶ 福祉・福祉サービス</p> <p>㊷ 福祉・福祉サービス</p> <p>㊸ 福祉・福祉サービス</p> <p>㊹ 福祉・福祉サービス</p> <p>㊺ 福祉・福祉サービス</p>	<p>① 福祉・福祉サービス</p> <p>② 福祉・福祉サービス</p> <p>③ 福祉・福祉サービス</p> <p>④ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑤ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑥ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑦ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑧ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑨ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑩ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑪ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑫ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑬ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑭ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑮ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑯ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑰ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑱ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑲ 福祉・福祉サービス</p> <p>⑳ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉑ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉒ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉓ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉔ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉕ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉖ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉗ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉘ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉙ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉚ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉛ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉜ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉝ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉞ 福祉・福祉サービス</p> <p>㉟ 福祉・福祉サービス</p> <p>㊱ 福祉・福祉サービス</p> <p>㊲ 福祉・福祉サービス</p> <p>㊳ 福祉・福祉サービス</p> <p>㊴ 福祉・福祉サービス</p> <p>㊵ 福祉・福祉サービス</p> <p>㊶ 福祉・福祉サービス</p> <p>㊷ 福祉・福祉サービス</p> <p>㊸ 福祉・福祉サービス</p> <p>㊹ 福祉・福祉サービス</p> <p>㊺ 福祉・福祉サービス</p>

- ・ 犬山市内 5 圏域毎に「幸（高） 齢者のためのつどいの場」マップを更新。
- ・ 尾北薬剤師会の協力あり、市内薬局各所に掲示。
- ・ 令和3年度を増版し、各所配布予定。

②犬山市生活支援体制整備事業のホームページ 公開

犬山市生活支援体制整備事業



お知らせトピックス

- 令和2年7月01日 新型コロナウイルス感染予防のため、犬山市全域で2層協働体の開催を見合わせています。再開の時期、開催方法についてはこちらのホームページお知らせいたします。
- 令和2年6月01日 犬山市生活支援体制整備事業のホームページができました。今後、各地域の取組み状況など、最新の情報を掲載していきます。

最近の生活支援コーディネーターの活動報告

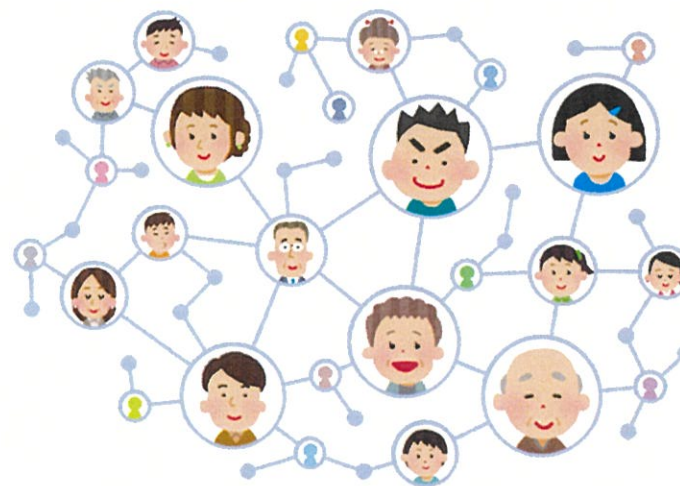
犬山市全域				犬山北地区					
協議体 (15)	つどいの場 (2)	生活支援 (2)	その他 (11)	協議体 (18)					
	令和2年7月14日(火) 犬山市協働プラザに伺いました。 犬山市協働プラザに伺いました。今年4月にフロイデの1Fにオープンした市民活動の拠点！犬山市内の各...		令和2年6月16日(火) 令和2年度 第1回生活支援コーディネーター連絡会 犬山市役所401会議室にて、今年度1回目の生活支援コーディネーター連絡会が開催されました。新型コロナウイルス...		令和元年6月27日(木) 第18回協議体 開催日:令和元年6月27日(木) 運営回数:18回 参加人数:10人 北地区での地域の課...		令和元年5月23日(木) 第17回協議体 開催日:平成31年5月23日(木) 運営回数:17回 参加人数:13人 シルバー人材セン...		平成31年4月2日(金) 第16回協議体

令和2年11月25日 一般公開開始

更新状況 : 月2~4回更新中

ホームページ周知パンフレット作成
関係者、市内各所配布

③生活支援体制整備事業：親和領域との連携



犬山市生涯現役地域連携協議会



高年齢者雇用の現状と事例に基づく雇用拡大

愛学教授
関 千里

2021年2月16日(火)
犬山市生涯現役促進地域連携協議会
於：犬山市民交流センター

生涯現役促進地域連携事業の概要

【別添3】

背景

- 少子高齢化が進展し、労働力不足が課題となっている中で、働く意欲のある高齢者が能力や経験を生かし、年齢に関わりなく働くことができる生涯現役社会を目指すことが重要。
- 特に、平成26年に団塊世代（約660万人）が65歳に到達し、多くの人が企業を退職していると考えられ、地域社会におけるこれらの層の活躍の場を早期に整備することが必要。
- 令和2年度は、「働き方改革実行計画」及び「ニッポン一億総活躍プラン」に基づき、地域の実情に応じた高齢者の多様な就業機会を確保するための協議会の設置を促進し、当該事業の実施箇所を拡充（令和2年度開始分：連携推進コース38箇所、地域協働コース20箇所）する。

事業内容

生涯現役促進地域連携事業

(A) 連携推進コース…地方自治体を中心となって構成される「協議会」等からの提案に基づき、地域における高齢者の就労促進に資する事業を幅広く実施。

(B) 地域協働コース…協議会の仕組みを活用し、連携推進コースにより構築した地域ネットワークによる効果的な取組と自治体が自主的（新規）に行う取組との双方が協働して事業を行うことを支援する事業を実施。

事業実施スキーム

支援メニュー例

- ① 高齢者に対する情報提供、関係機関、関連事業の紹介
- ② 高齢者に対する職業生活設計等に関するセミナー開催
- ③ 企業に対する生涯現役促進セミナー開催
- ④ 高齢者の雇用・就業に係る合同説明会の開催
- ⑤ 高齢者活躍のためのガイドブック・情報誌の作成・普及（相談機関一覧の掲載等）
- ⑥ 高齢者の雇用・就業に係るニーズ調査・分析
- ⑦ 高齢者向けの雇用・就業の場の創出

事業規模

(A) 連携推進コース：1箇所あたり各年度約3,000万円
事業実施予定数71箇所
（うち令和2年度開始分38箇所）

(B) 地域協働コース：1箇所あたり各年度約1,500万円
（新規）事業実施予定数20箇所

事業実施主体及び期間

- 実施主体：協議会（地方自治体を中心とした合議体）等
- 事業実施期間：最大3年度間

- ・ 高齢者雇用の拡大
→ 経験やスキルを発揮する機会の創出
- ・ 高齢者の社会参加 = 生涯現役 ≡ 介護予防

犬山市商工会議所



- ・ 市内事業所、経営者とパイプ作り
- ・ 体制整備事業の案内
- ・ 販路拡大、CSR活動の相談
→win=win の関係づくり



犬山市 市民協働プラザ

市民活動の困りごとは専門家に相談して前に進もう!



相談されたい

市民活動 専門相談室

運営力 UP!



相談したい

事業・イベント企画 広報・集客の相談

開催日 第1土曜日
時間 9:00~12:00
担当 佐藤剛史

WEB制作会社等での企画・デザイン・写真、市民活動、NPO法人事務用運営の経験より、活動における企画や広報活動の支援を行う。米田NLP協会認定NLPマスタープラクティショナー。

- 対象者に合わせた事業企画
- SNS、ブログ、メルマガ、ホームページ等の活用
- イベント企画の立て方(オンライン含む)
- イベント運営方法など

まちづくり 活動相談

開催日 第2金曜日
時間 14:00~17:00
担当 高田弘子

シンクタンクとして、市民意識調査・統計解析・実態調査・総合計画など市町村の計画・まちづくり地域のまちづくり等に深く関わる。

- 集いのきっかけと活動の場づくり
- ハンディキャップを乗り越えるまちづくり
- 変えてほしい活動・変えられる活動

高齢化社会を支える 地域貢献相談

開催日 第2土曜日
時間 14:00~17:00
担当 河野政徳

一般社団法人 和顔の輪 代表理事、129歳まで90歳まで生活支援コーディネーターを兼任。地域の介護インフラを整えるべく起業。

- つどいの場、居場所づくりの立ち上げ、運営について
- 高齢者の移動問題、買い物困難に対する課題について
- 変えたい活動、ゴミ出し支援などの生活支援について

市民活動団体の運営 資金調達相談

開催日 第4金曜日
時間 14:00~17:00
担当 三輪光子

NPO法人理事長・地域の居場所主宰 愛知県教育委員会・生活学習指導員 社会教育委員・大学研究倫理審査委員

- 団体運営に必要な資金調達方法
- 団体を継続させるために必要な事
- 活動を支える人脈作り

相談無料

毎月定期開催

予約優先

★活動時間は一入組一時間
(※お申し込みは前日15時前まで)

私たちが相談員が
あなたの活動を
応援します!

FIGHT!
その熱意が
活動の原動力

犬山市 犬山市松本町四丁目21番地
(犬山市民交流センターフロイデン内)
申し込み・問い合わせ 受付で申し込めます

① 電話でお申し込みください。
受付に「専門相談室」と伝えてください。
TEL 0568-48-1221

② メールでお申し込みください。
件名に「専門相談室」本文に氏名、電話番号、相談内容、希望日時をお知らせします。
Eメール info@inuyama-plaza.com

③ 協働プラザホームページのお問い合わせフォームから、
お申し込み内容欄に「専門相談室」、相談内容、希望日時をお知らせします。
ホームページ inuyama-plaza.com

- ・ 市民活動団体、熱意ある市民とのつながり
- ・ 社会資源バンク、ネットワークづくり
- ・ 高齢者を対象にした市民活動の相談受付
→体制整備事業の案内

いぬやまコミュニティ農園

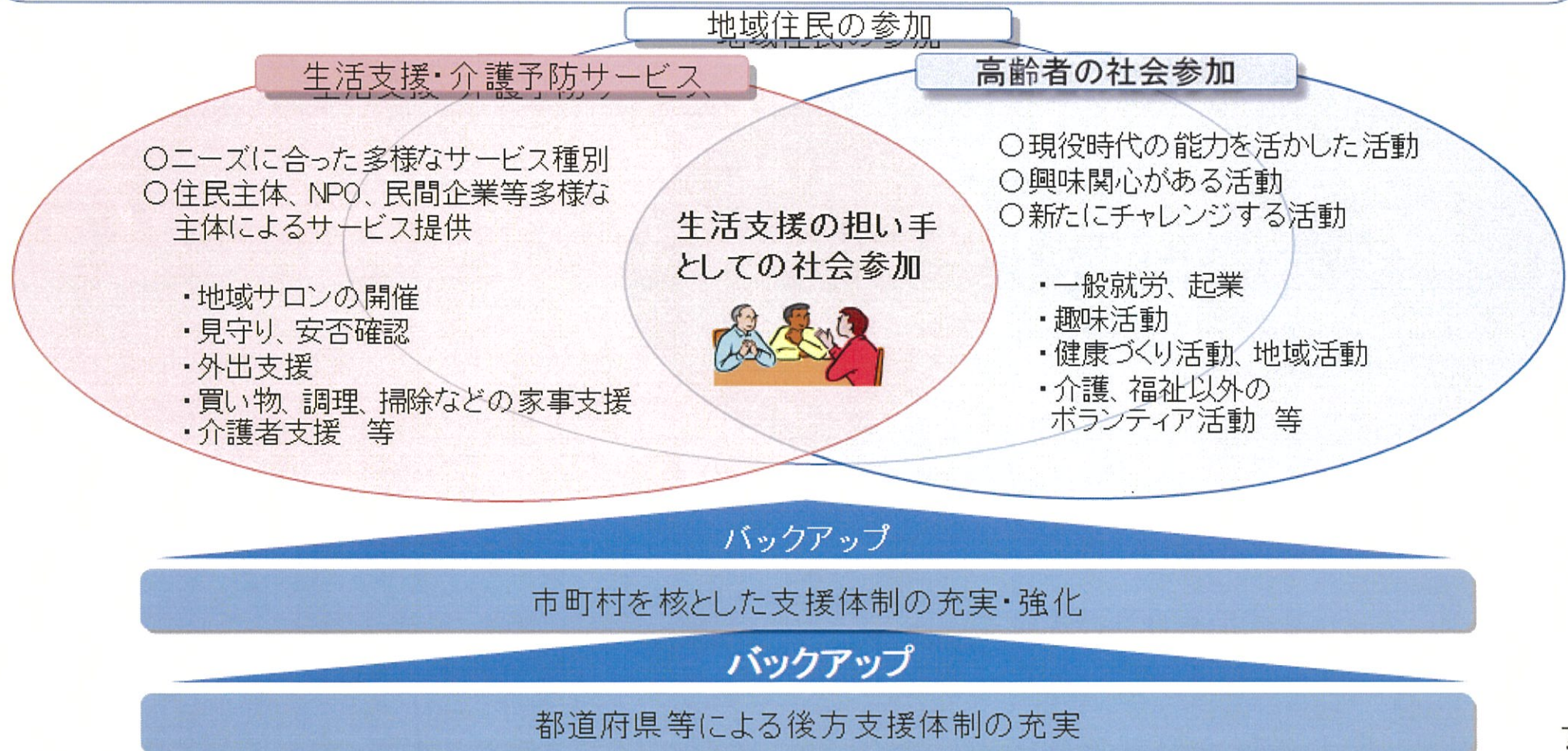


- NPO法人が運営する事業
- 高齢者のつどいの場の一環として期待
→コロナ禍でも集まれる
- 高齢者 × 社会参加 × 多世代交流 × 生産 × ∞

生活支援・介護予防サービスの充実と高齢者の社会参加

厚労省資料

- 単身世帯等が増加し、支援を必要とする軽度の高齢者が増加する中、生活支援の必要性が増加。ボランティア、NPO、民間企業、協同組合等の多様な主体が生活支援・介護予防サービスを提供することが必要。
- 高齢者の介護予防が求められているが、社会参加・社会的役割を持つことが生きがいや介護予防につながる。
- 多様な生活支援・介護予防サービスが利用できるような地域づくりを市町村が支援することについて、制度的な位置づけの強化を図る。具体的には、生活支援・介護予防サービスの充実に向けて、ボランティア等の生活支援の担い手の養成・発掘等の地域資源の開発やそのネットワーク化などを行う「生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)」の配置などについて、介護保険法の地域支援事業に位置づける。

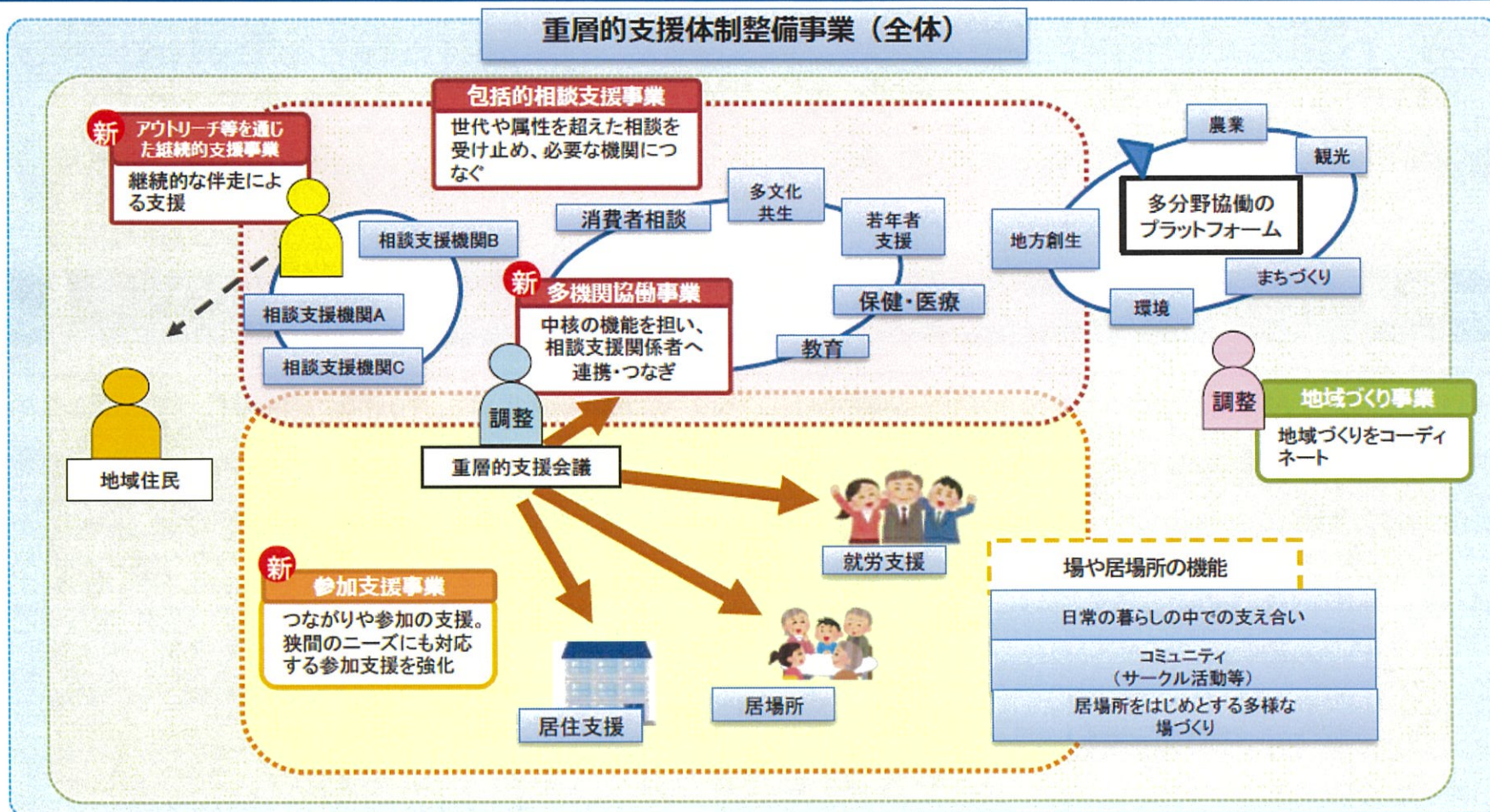





④協議体の成長

- ・ 地元愛、我が事意識
→協議体に参加する「お得感」＝地域情報が集約、欲しい情報が手に入る
- ・ 組織の垣根を超えたアイデア
→縦割りではない自由な発想
行政批判ではなく住民主体での『できること探し』
- ・ 高齢者だけに偏らない視野
→障害者、子育て、外国人、観光、就労など
※重層的支援体制整備事業に通じるスケール感

- 相談者の属性、世代、相談内容に関わらず、**包括的相談支援事業**において包括的に相談を受け止める。受け止めた相談のうち、複雑化・複合化した事例については**多機関協働事業**につなぎ、課題の解きほぐしや関係機関間の役割分担を図り、各支援機関が円滑な連携のもとで支援できるようにする。
- なお、長期にわたりひきこもりの状態にある人など、自ら支援につながる事が難しい人の場合には、**アウトリーチ等を通じた継続的支援事業**により本人との関係性の構築に向けて支援をする。
- 相談者の中で、社会との関係性が希薄化しており、参加に向けた支援が必要な人には**参加支援事業**を利用し、本人のニーズと地域資源の間を調整する。
- このほか、**地域づくり事業**を通じて住民同士のケア・支え合う関係性を育むほか、他事業と相まって地域における社会的孤立の発生・深刻化の防止をめざす。
- 以上の各事業が相互に重なり合いながら、市町村全体の体制として本人に寄り添い、伴走する支援体制を構築していく。





次年度に向けて

- ・生活支援体制整備事業、ささえあいの活動を広める住民周知
→ホームページの更新、かわら版等の広報誌作成
- ・新しい生活様式に留意しつつ、活動を続ける仕組みづくり
→動画配信、ZOOM会議の活用など
- ・親和性のある領域との連携強化、情報交換
→重層的支援体制整備事業に通じるスケール感

ありがとうございました。

会議録

1 附属機関の名称

犬山市高齢者地域ケア・生活支援推進協議会

2 開催日時

令和3年3月22日（月） 午後1時30分から3時まで

3 開催場所

市役所 205会議室

4 出席した者の氏名

- (1) 委員 岡田 和明 委員
板津 克哉 委員
堀場 秀樹 委員
奥村 好樹 委員
松本 里美 委員
森岡 万朱衣 委員
矢島 幹弘 委員
深堀 万利奈 委員

(2) その他 犬山市生活支援コーディネーター 河村 政徳

(3) 執行機関 健康福祉部高齢者支援課 課長 上原 敬正
" 主査 谷本 美幸
主査補 葦澤 絵美

5 議題

- (1) 犬山市高齢者移動支援事業について（資料1）
(2) 犬山市生活支援体制整備事業の進捗状況について（資料2、3）
(3) その他

6 傍聴人の数

0人

7 内容

事務局 | こんにちは。定刻となりましたので、令和2年度第2回犬山市高齢者地域ケ

(上原課長)

ア生活支援推進協議会を開催させていただきます。
本日はお忙しいところご参集いただきまして、誠にありがとうございます。
それでは開会にあたりまして、岡田会長よりご挨拶をお願いいたします。

岡田会長

皆さんこんにちは。座ってあいさつさせていただきます。
今年ももう3ヶ月経ちました。早いですね。もうすぐ新年度で、年度変わりのお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。
過日は、私どもの大学で卒業式を行うことが出来ました。卒業生にとって、この一年は確かに不自由な、そして辛い一年だったかと思います。
ただ、これまで経験ができなかった遠隔授業だとかウェブでの就活、それから生活様式が大きく変わった年でした。多分これが当たり前となる社会が始まって、それを最初に体験できたということを含めとして世の中に出て行って欲しいと思います。
さて、内閣府から2月26日に地域社会の暮らしに関する世論調査、いわゆる地域の暮らしの満足度調査というものが公表されました。自治体の規模や回答者の年齢によってばらつきはあります。今日は細かい数字は紹介しませんが、人々が感じる満足度の尺度が、買い物だとかの生活の利便性もさることながら、高齢者の介護だとか生活支援などといった、いわゆる地域社会での人のつながりの方に重きを置いた尺度を持つてみえるという結果なっています。このような結果を踏まえまして、さて犬山はどうするの、どうなるのということを皆さんと一緒に考えていきたいと思っていますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

事務局

(上原課長)

ありがとうございました。事前に配付しました資料の確認をさせていただきます。

(資料確認)

不足等ありましたら、お申し出ください。皆さん、よろしいでしょうか。
それでは、本日は10名の委員のうち、現在9名の出席となることから、犬山市高齢者地域ケア生活支援推進協議会規則第4条第3項に規定する会議開催の要件を満たしていますので、本日の委員会は成立することをご報告申し上げます。本日の傍聴者は0名です。議事録につきましては、市のホームページに公開されますのでよろしくをお願いいたします。
それでは、以後の進行は、犬山市高齢者地域ケア生活支援推進協議会規則第4条第2項によりまして、岡田会長にお願いしたいと思っております。
それでは、岡田会長よろしくをお願いいたします。

岡田会長

はい。それでは限られた時間がありますけども、中身の濃い議論をしていきたいと思っていますので、皆さんよろしくをお願いいたします。
早速ですが、本日の協議事項1 犬山市移動支援事業について事務局から説明

をしてください。

事務局
(谷本)

皆さん改めましてこんにちは。高齢者支援課の谷本です。皆様にお配りしました資料1 高齢者移動支援ニーズ調査についてという資料をご覧ください。皆様にも、こういった移動支援の課題を地域住民と一緒に考えるということで、愛知県のモデル事業に手を挙げさせていただいたことを以前にお話をさせていただきました。皆さんの中からも、半分以上の方が移動支援検討部会という部会の方に出席していただきまして、具体的に移動支援の形を検討していくことを進めております。

今回は出席されていない方もおりますので、今どういった進捗かということをご報告させていただきたいと思っております。

(資料1説明)

- ・モデル事業3ヶ年のうち、1年目にアンケート調査、2年目と3年目に実証実験を予定しており、今年度はアンケート調査を実施。
- ・11月に市内の20歳以上の4千人の方を対象に無作為抽出でアンケート調査票を配付し、回収率は73.2%と高い。
- ・ニーズ調査の目的はどれだけの方が移動の問題で困っているかを把握すること。
- ・困っている人の割合17%で思ったよりも少ない。
- ・現在は困ってないが5年後は困ると思うかについて、40%が「はい」と答えており、高齢者は58%が困ると回答。
- ・現在のニーズとしてはとても小さいが、5年後は困るという不安感はある。
- ・実際に困っている、かつ事業が立ち上がった時に利用したい数値が高いのは池野小学校区と東小学校地区。
- ・池野小学校区に声をかけて来年度以降の実証実験につなげていきたい。
- ・困っていなくても利用したい人も多く、本当に必要な人とどう振り分けていくかという仕組みもこの事業の中には必要という認識。
- ・既存のコミュニティバスやタクシーとの住み分けも考える必要あり。
- ・実際に、お客さんを取られてしまうのではないかという不安の声も聞く。
- ・担い手は少なかったが、皆無ではなく一定数いる。
- ・条件を整えば手伝ってもいいという人もいるので、条件さえ整えることができれば担い手として参画してくれる人も増えるか。
- ・自分の運転で誰か人を乗せていくという不安は、担い手の中ではとても大きいので、保険や事故対応についても検討が必要。
- ・池野地区に打診しているが、新しい町会長が決まってからもう一度話をする予定。
- ・17%とニーズが小さいからこそ、市の施策ではなく地域の支え合いの中で助けられる部分ではないかと思っている。
- ・部会では、現場の体感としてもう少し参画してくれる担い手はいるのでは

ないかという意見もあったので、地域に出て話を具体的に落とししていく中で見つけられるのではないか。

- ・市の施策として大きな事業をつくろうというのではなく、発端は生活の課題を支え合いで解決していこうところであるため、地域住民同士の支え合いの仕組みづくりについて、継続的に実現していけるようなものをつくっていききたい。

岡田会長

ありがとうございました。

先ほど紹介があったように、この検討部会にもこの中から委員さんをご参画いただいております。加藤委員も部会長としてご参加いただいておりますので、加藤委員、部会長として今の報告以外に皆さんにお伝えしておくということがあればお願いします。

加藤委員

はい。加藤です。このスライドで言うと29の図がわかりやすいかな。前回の部会で印象に残っているのは、本当に必要な人の選別ができるかということと、ドライバーの確保ができるかということ。これは移送サービスに限ったことではなくて、どうやって必要なところに必要な分だけ届けるか。要は、本当にニーズがあるところや困っているところと助けてもいいという人をどうつないでいくかというプラットフォームや仕組みが、今、問われていて。先ほど事務局の説明にもあったように、今現在は困ってないけれど5年後不安だという声があるということは、やはり今から手を打っておくべきかなということと、先ほど岡田会長が大学の話をされましたが、教育の現場、大学でもずっとオンライン話が出ていた。でも全然進まなかったですよ。でもこの一年で、多分ほとんどの教師、教育者はオンラインで何らかの業務に携わったはずですよ。

それって、社会が大きくそっちに振れてしまったから仕方なくそれに追随したんですけど、やはり今、5年後は不安だっていう人がいる中で、まだそれほど切迫してないけれども、今のうちにそういうプラットフォームなり仕組みをつくっていくのはすごく大事なかなというのが1点。

もうひとつは、先ほど事務局の説明の中で、市の施策じゃなく支え合いだということがありました。これは美しいストーリーですけど、これを本当に実現しようと思うと、関わる人というか担い手や支え手になってもいいという人のモチベーションだとかベネフィット、何か戻ってくるものが必要。それは、お金とか対価が戻ってくるというだけじゃなく、役立った嬉しさだったり繋がりだったり、その関わりしろをちゃんと設計してからこの仕組みを呼びかけないと、善意だけに頼っていくと続かないので、その2点が印象に残っています。

そのためには、皆さんウーバーイーツはご存知だと思うんですけど、もとはアメリカのサンフランシスコのウーバーっていう移送サービス、要は車両の

運搬のシステムで、ここからここに行きたいという人がグーグルとかで検索すると、電車とか徒歩とかが出るんですが、アメリカだとウーバーって出るんですよ。ウーバーって一番安くて、今どこにいてここから何分かかかるってウーバーイーツと同じシステムで移送サービスができるんです。

だから、あれができるってことは、必要な人のところに必要な人が行って人を運んでお金を払ってという全部のことが続けて行われることができるってことなんです。日本にはそれは入ってきてないんですけど、それを地域の中の小さな単位でどういうふうにつくっていけるのかなという実験だとすると、そこに興味がある若い人だとか事業者さん、特に社会貢献でなくて本業でそういうことを真剣に考えている事業者さんが入ったりすると面白いのかな、なんて思っています。

だから、ある意味ワクワクするする、先に行く事業にできるんじゃないかなと思っています。長くなりました。

岡田会長

いえ。他の委員さんからは何かよろしいですか。

では、今日初めて聞かれたという委員さんからご質問なりご意見なり伺えればいいなと思っています。

はい、堀場委員どうぞ。

堀場委員

はい。この中の20ページ、ドライバーとして参加できる人数のところですけども、65歳以上の方が比較的多くエントリーされていらっしゃるという結果が出ていることに反対するわけではないんですけども、実は私もシルバー人材センターでトマトの事業を始めた時に、実際にそれを商品として移送をするというドライバーが必要だったことがあります。その時に、本人に聞くと問題ない、いいよと言うんです。ただ一旦家庭に持ち帰ると、高齢者の事故が多いとかで高齢者がドライバーをするということに関して不安を感じる家庭が多くありました。決してアンケート結果に物申すわけではありませんけれども、実態として、実行する時にはその可能性も無きにしも非ずかな、と感じたところです。以上です。

岡田会長

実際に、地域に入っていく時には今の意見を参考にさせていただければと思います。他にご意見よろしいですか。

では、実際にこれから池野地区に入っていく訳ですけども、大体のスケジュールとかどんなアプローチをしていくかというようなこと、せっかくなので。

事務局
(谷本)

・今のところの事務局としての構想ではあるが、地域住民と一緒に作り上げたいという思いがあるため、地域住民とワーキンググループを何回か重ねる中で事業の実現できる部分を探っていきたい。

- ・そのため、実際この実証実験がスタートするのは年度の後半を想定。
- ・この部分を本当に丁寧にすることで、やらされ感を持たれたり継続性のない事業になってしまうことを避けたい。
- ・どこまでならできるか、できない時の代替案も含めて地域住民と話していきたい。

岡田会長

よろしいですか。では、そういう時はまた皆さんからのお力、お知恵をお借りしながら進めていただけたらと思います。

それでは、ご意見もないようですので、協議事項 2 に入っていきたいと思います。生活支援体制整備事業の進捗状況についてということでございますけれども、ここで、私も含めて確認の意味を込めて、生活支援体制整備事業におけるこの協議会の立ち位置というものを確認したいと思います。

この会議は、多様な主体を代表して皆様に参加していただいております。

つまりは、この事業に対しては第 1 層の協議体というふうに位置付けていただければと思います。第 2 層の圏域の活動の中で、圏域内だけでは解決できない課題を吸い上げながら、皆さんの互いの情報共有、そして委員の皆様の知見や経験、ネットワークを通じて課題解決を図り、2 層協議体や、より現場に近い 3 層の協議体、いわゆる担い手さんたちの活性化支援につなげていきたいというふうに考えております。

これから今年度の事業の進捗について報告をいただきますが、圏域の課題についても触れられると思いますが、皆さんの目線で今後課題になりそうなことをぜひ拾い上げていただいて、この場で議論できればと思っております。前置きが長くなりましたけれども 2 番目議題に移りたいと思います。それでは事務局から説明をお願いします。

事務局
(菰澤)

はい。それでは、これから河村さんが発表していただきますが、先ほどの岡田会長のご意見もありましたけれども、事業進捗の中で課題等を皆様からの活発なご意見で出していただければと思います。

生活支援
コーディネーター

はい。ではこれから、犬山市生活支援体制整備事業の進捗ということでお話をさせていただきます。今年度 7 月でしたか、さら・さくらに皆さんお集まりいただいた時に、コロナからやっとな動き始めたというようなことでしたり、コロナのせいにはしないと私は思っていました。

今年度、いろんなところで便乗自粛や、コロナのせいにしてやらなければならないことをやっていないといわれることがあって、自分自身、他の圏域のコーディネーターも一緒だと思うんですが、コロナのせいにはしないと、コロナでもできることを考えてやろうと思って活動してきたところです。

今回、各地区 2 層協議体の現状、全体としての取組、来年度に向けてという 3 つの柱でお話をさせていただきます。

- ・コロナになって分かったこととして、人と人とのつながりや支え合いの活動が本当に必要だなということを皆が思ったのではないか。
- ・高齢者の方にとっては自粛や家の中で閉じこもり気味になり、社会に出ることや人と繋がるのが本当に必要だということが実感できたのではないか。
- ・新しい生活様式に合わせて活動していくやり方にも、アイデアを出していかなければならない。

【各地区協議体の進捗状況】

①犬山北地区

- ・今年度からあんしん相談センターの受諾法人が変わり、ヨシヅヤの従業員用会議室を借りて4回実施。
- ・再開にあたり、これまでの北地区の振り返りと制度説明をレクチャーするところから始めた。
- ・丸山地区で支え合いの活動を立ち上げたいという参加者がいる。
- ・先行事例として把握していた西楽田団地の支え合いの会の視察を計画した。
- ・わん丸君バスに乗って参加者で西楽田団地を訪問し、現場担当者から話を聞こうと計画していたが、緊急事態宣言の再発令を受けて保留中。
- ・犬山北地区の特徴：参加者の属性が、民生児童委員や老人クラブ連合会、犬山西コミュニティ、犬山北小学校のPTAなどで専門性の高い話が出ていた印象。
- ・次年度は西楽田団地をモデルとして丸山地区で支え合いの活動が始まるといい。

②犬山南地区

- ・年間6回開催。
- ・参加者は、フェイスシールドを着用し、感染症対策をしながら情報を地図に落とし込んだりした。
- ・新しい参加者も増えているため、協議体の手引きという冊子を使いながらレクチャーをして開始した。
- ・白帝団地の事例では、集会所も老人クラブも子供会もない地区で、男性の方がシニアクラブを作りたいと立ち上がった。
- ・集会所もない中でどうやっていこうかと悩んでいた時に、町内会長に選出された人が広報紙の配付などの町内の仕事が多すぎて引き受けられないと言っていることを知った。
- ・次期町会長が困っていることとシニアクラブが困っていることを合わせて、Win-Winの関係がつかれないかと話合われた。
- ・話し合いの中で次期町会長が広報紙の配付を民間事業者に委託しようとしていたことが分かり、シニアクラブが広報の配付を町内会から受諾するということになった。
- ・別の事例では、子どもの登下校や高齢者の散歩時にトイレを貸してくれる

事業所や店舗を探して地図に落とし込んでいます。

- ・コロナ禍での協議体の開催方法を考え、グループLINEなどSNSを使ったりしている。
- ・比較的高齢者の中でも若い方が多いため、できるのかもしれない。

③城東地区

- ・2回開催。
- ・地域の地元住民のニーズを聞いて移動販売業者と弁当業者をマッチングしたというような事例がある。
- ・課題も出てきたため、今後検討が必要。

④羽黒池野地区

- ・4回開催。
- ・地域の高齢者サロンや体操教室が軒並み活動自粛されていた中で、あんしん相談センターの職員や2層生活支援コーディネーター、民生委員の協力で、あんしんだよりというニューズペーパーを作って高齢者世帯やひとり暮らし世帯に配布した。
- ・地域の世帯に配布して皆さんに防犯意識をつけてもらおうと、シオン倶楽部が作っている「ちょこパト防犯」とコラボレーションして500枚提供を受けて配付した。
- ・配付はひとり暮らし高齢者に限らず、家の門灯や新聞受けなどにぶら下げることで、地域で防犯の意識があることをPRするために使われている。
- ・子どもの登下校や高齢者の散歩時のトイレ問題から、入鹿池には観光用のトイレや公衆トイレがないという問題に発展した。
- ・2層生活支援コーディネーターと現地調査に行ったが、冬はワカサギ釣りの人が多く、利用する店や駐車スペースも決まっているようで、なかなか外部の人が利用することが難しい状況になっていた。
- ・トイレを貸してもらえるかと店舗を回ったが、1店舗がやると他のところもやらなければいけないということや、管理に手がかかるというようなことから難色を示された。
- ・参加者からの意見で、今後も継続して話していくことになった。

⑤楽田地区

- ・3回開催。
- ・緊急事態宣言の再発令を受けて止まっている状況。
- ・楽田地区のふれあいセンターに鬼滅の刃の絵を飾ってあるという話題から、つつじヶ丘という団地で地域活動を始めようと去年から動いている方たちが地域の集会場にイルミネーションを実施した。
- ・つつじヶ丘では、住民同士の移動支援の仕組みづくりの話も出ている。
- ・羽黒地区で先行的な事例があるため、話を聞くところで保留になっている。

【全体としての取組】

①つどいのばマップの更新

- ・昨年度、犬山市5圏域ごとに高齢者の集いの場を集めたマップを作成した。
- ・場所の加除や関係の方の情報の修正などのアップデートを実施。
- ・尾北薬剤師会の協力によって市内の薬局に配付した。
- ・修正箇所あり

⇒2枚目 犬山南地区

表面：犬山西小学校の下あたりの⑬→緑の⑮に。

裏面：緑色の⑬が2つある→買い物支援ネットワークを⑮に。

- ・今後の増刷分に関しては、ここを修正して配付する。

②ホームページ公開

- ・活動の見える化と住民周知のために作成したホームページが11月25日に一般公開となったので、時間がある時に見ていただきたい。
- ・更新状況は月に2~4回。

③生活支援体制整備親和領域との連携

- ・この状況でできることや連携先など、人との繋がり方を色々考えた。
- ・犬山市生涯現役地域連携協議会に出席した。
- ・愛知学院大学 関先生の講義で、高齢者の雇用拡大や高齢者の方培ってきたスキルや経験を発揮する機会を作っていくという内容や、SDGsにあわせて持続可能な社会づくりをする必要があるというところが大変参考になった。
- ・高齢者の社会参加＝生涯現役だが、介護予防にも通じるものがあると感じた。
- ・市内の事業所や経営者の方との関係づくりのために、商工会議所のセミナー10回コースに出席した。
- ・会社経営者や喫茶店経営者から、販路拡大の話が出た。
- ・老人クラブにシフォンケーキを売りに行きたいなど様々なニーズがあり、まだまだマッチングができるのではないかな。
- ・製菓会社社長にも老人会やサロンなどに廃棄のお菓子をいただけないかという話もしたが、現状ではサロン活動が中断しているため、再開時にはコミュニケーションが取れてマッチングができることで地域力が強くなっていくのではないかな。
- ・犬山市市民協働プラザについては、今年度からフロイデで活動しており、今後市民活動中核組織になっていくのではないかな。
- ・生活支援体制整備と重なる部分を一緒にやっていけるといい。
- ・いぬやまコミュニティ農園は、青空の下の開放的なところで高齢者が農園の運営に携わることができる環境や、ヤギと高齢者と子供たちが自然の中で触れ合えることがとても面白い。
- ・高齢者と社会参加、多世代交流や耕作放棄地の活用など広がりがある。
- ・こういった事業が他にもできてくるといい。
- ・厚生労働省の資料にもある高齢者の社会参加のところで、現役時代の能力

を生かした活動や新たに始める活動というところが生活支援体制整備事業の担い手になってくるため、今後も連携を図っていきたい。

④協議体の成長

- ・地元愛や我が事意識が芽生えたのか、協議体再開時に参加者が自主的に楽しみに集まってくれた。
- ・協議体に参加するメリットは、地域情報が集約されていて欲しい情報が手に入る事。
- ・若い世代は、SNSを使ったりインターネット掲示板を使ったりして情報を取りに行く。
- ・高齢者も協議体に来れば地域で起きていることやお店の情報などが得られるため、協議体に参加することが楽しみにしているのでは。
- ・犬山北地区のように参加者が多様だと、今まで個々で動いていた活動が縦割りではなく横一線の自由な発想になり、全部ひっくるめて皆で考えられる状態になっている。
- ・その中で、行政依存ではなく住民主体でできることを探していこうという空気ができてきている。
- ・協議体の話題が、子育てや外国人、観光、就労というように広がってきた。
- ・以前は高齢者のことだけという意識だったが、地域は高齢者だけじゃなくいろいろな人がいる、いろいろなことが起きていると理解し始めている。
- ・国が進めている重層的支援体制整備事業は、地域の中で困難を抱える様々な人を支援する体制を構築するもので、まちづくりや地方創生、農業、観光という分野もある。
- ・視野を広げて大きいスケールにしていくというような方向性が、協議体の中でできてきたなという認識。

⑤次年度に向けて

- ・生活支援体制整備事業や支え合いの活動を広めていくために、ホームページは随時更新していく。
- ・ホームページにアクセスできない人を対象に、かわら版のような広報紙の作成もしていきたい
- ・新しい生活様式に留意しつつ続ける仕組みとして、動画配信やZoomなども取り入れていく必要がある。
- ・今後も、委員の皆さんの領域とも連携しながら進めていきたい。

岡田会長

ありがとうございました。冒頭、河村さんからコロナのせいにしないぞというお話がありましたけれども、私ども地域連携センターでもいろんな行政の部署の方と話をしますし、関連する団体なんかとも話をするんですが、このコロナの中でも何かやってみよう、何かやろうと思われたところと、コロナだからと言い訳に使ってしまったところとでは、この年度末にすごく差ができてきているという気がします。

その意味からすると、これだけ活動されたということは本当に評価できることかと思えますし、これに関わっていただいた方のご紹介もありました。その中で、もうちょっとこうしたら上手くできるんじゃないかとか、ここはこういうふうにした方がというような、或いは、ちょっとご意見として、課題という意味合いでですね、出していただけるといいのかなど。いかがでしょうか。では、実際に犬山南地区で活動されている原さん、何かご意見があればお願いします。

原委員

犬山南地区でトイレの話が出た時に、協議体の参加者だけでなく学校を巻き込んだらどうかという話がありまして。で、学校の教頭先生と話をしたんですが、PTAの地区委員の参加者が基本的に関わっているという話があったので、これを成し遂げるにはPTAの地区委員と話し合いをしたほうがいいんじゃないかという話が出てきているわけで。PTAとどれだけ関係づくりができるか疑問ではありますが、取り組もうという話になっておりまして、新年度になったらその辺も踏まえた動き方をしないといかんと考えています。それと、地区の町会長さんが選出できないというのはどこの町内でも多分問題があると思うんですが、そういう中から、白帝団地みたいにそれがベースになってひとつの組織が出来上がって地区のために動けるような形ができたということは、僕は非常にいいことだと。そういう活動が本来の協議体の活動だと思っていますので、そんなことがあり次第、課題を見つけながら進めていきたいというふうには思っています。以上です。

岡田会長

ありがとうございます。この間のタウンミーティング時に、学校の先生がご発言されているかと思うんですけども、あの先生のお話を聞いていると、本当にすごくいいなと思ったんですけども、どうですか。

事務局
(菰澤)

- ・タウンミーティングは認知症の高齢者をどう地域で見守るかというテーマで、城東中学校の先生に中学校の生徒さんを対象とした認サポ講座を2年間続けてくださっていることについて話をしていただいた。
- ・地域で子供たちを育てることで、その大きくなった子供たちが地域に帰った時に何か他ごとに気づくきっかけが認サポで得られているのではないかということで、前向きにその先生は地域と関わっていく姿勢を見せてくださっていたので、切り口だけの話のようにも思う。
- ・タウンミーティングの時は子どもと地域との関わりということだったため、トイレ問題など子どもに対してどう活かされるのかというところが先生たちにご理解いただけると、また話が進むのではないか。
- ・羽黒池野地区協議体でも通学時のトイレが問題に挙がり、学校に打診したが上手に折衝できなかった。
- ・貸してもいいと言う人たちも、防犯の関係から誰かれ構わず貸せないとい

うところがあつたため、どう理解を得ていくのかというところで少し検討が必要。

岡田会長

周りの人を巻き込んで、一つひとつよろしくお願いします。
深堀さん、いかがですか。

深堀委員

私のところはあまり前向きではないんですけども、コロナ禍で高齢者サロンがやれない状態になりまして、去年は3回しかやれなかったんですね。その中で、フェイスシールドを作ったりとか、クオリティをやっても1本1本消毒をしながらやるっていう状態で、皆さん本当に気をつけて、ここで絶対クラスターを出しちゃいけないと注意しながらの活動でした。やはり皆さん、名古屋行けていないとか友達と会えていないとか、そういうストレスがものすごくあって。1月からやっど、まだちょっと危ないけどって言いながら体操教室だけ始めたんです。そしたら皆さん、明るく楽しく。ここへ来ること、みんなと話ができることがとても嬉しいととても元気になられたんです。アンケートを取られていますけど、こういうアンケートをうちの団地でも出したんですね。なかなかその回答を皆さんにお知らせするのが出来なくて、最近回答を出すことができたんです。その中で、ちょっとした言葉の表現の違いとかそういうことでいろんなことがあつたりして、私の方がとっても疲れてしまいました。

さっき加藤先生がおっしゃいましたけれども、担い手といいますが、やる側がいかにかモチベーションを保っていくかっていうことが非常に難しいなど。サロンも止めるつもりだったが、ここに来てせつかくみんなで仲良く話をしていたところがなくなる、困るということがいっぱい聞こえてきたんですね。それで、これはいけないと思いました。自分が疲れちゃったから止めるって一言で済む話ではないんだと。そしたら、ちょっとずつ大変だから手伝うよっていう人が出てきてくままして。今まで私ひとりで一生懸命みんなやっていたんですけど、みんなでやろうねって言ったらちょっと気が軽くなりました。なかなか頑張りすぎるのもいけないし、地元の本音といいますが、そういうことをいっぱい聞きながら、移動販売なんかもやっているんですけども、やはり移動販売もマンネリ化してしまつて。なかなか変わったものが持つてこられない。お惣菜は、ひとり暮らしの方とかはちょっとした煮物とかそういうものが欲しいんだと聞いていたんですけども、移動販売の方からなかなか持つて来てもらえないというのがあつたんですけど、ついこの間の土曜日に一宮から来ている豆腐の移動販売の業者さんからお惣菜や豆乳で作つたロールケーキがあると聞きました。持つて来てもらったものを皆さんが食べられて、これはいいぞ、とってもおいしいよと。そういう形で、いろんなお店が来てマルシェみたいに団地の中でできるといいのかなつて。なかなか前向きになれなくてちょっと辛い一年でした。

岡田会長

ありがとうございました。担い手を支える人も必要だということです。情報を出すことによってまた違う人が支援してくれるということだとも思います。

板津委員、いかがですか。

板津委員

そうですね、協議体にも参加はさせてもらっています。最近、協議体も少人数ということでしばらく参加できていないんですけれども。社協としての活動としては、コロナの中でやらないというか、逆にコロナだから今までの繋がりだけでは突破できないことがいっぱいあるし、そういうことを新たな繋がりをつくることによって突破できる、それを Win-Win の関係でできるきっかけになるのかなと。そういう視点で社協がやっている事業も含めて見直しをしていかないといけないのかなっていうところがあります。

他の地域の活動もそうだと思うんですけど、頑張りすぎない。これは仕事じゃないわけですから、地域活動なので。給料をもらってやっているっていうのは労働の対価としてというのがありますが、ボランティア活動は労働対価ではないので、あくまでもモチベーションだったりそういったものが継続するための一つの要因になるので。それっていうのは、自分で持つ、自分で意識してできることと、あとやはり周りから見られ方も非常に大きく影響する話なので。当然、周りからやいやい言われるとせっかく自分は思っている、結局ひとりだけ空回りしている感じに思ったりしてそれ以上やっけない状況になるのかなと思うので。継続して地域活動をやっていくには、仲間をどれだけ作れるかということと、同じ仲間であったとしても、どこかで立ち止まって話しをしていかないと。マンネリ化してくるとそこにひがみが生じたりする場合がありますので、そういったところをどこかでお互いが立ち止まって、こうだったよねって確認しながらやっていくのが継続していくひとつの秘訣なのかなと、私なりに今までの活動の中で思うものですから。

今後、地域でやれていない活動がたくさんありますけども、社協として支援をしていく中で、そういったところを、皆さんどう思ってるかっていうのを聞きながら、じゃあこうしたらいいんじゃないのってお話をしていけるといいかなというふうに思っています。ちょっと違う話になってしまいましたけど。

岡田会長

はい。ありがとうございました。

深堀委員

今回、非常にあんしん相談センターの方が何度も団地に来てくださって。体操教室の中でやる体力測定には、7人ぐらい保健師さんとかセンターの方が来てみんなと関わっているようなゲームをやってくださって、とっても楽しい時間が過ごせたんですね。それで、皆さん本当に1年ぶりに元気になれたって

いう声がありまして。そういうことも、助けていただける、センターの方が本当に目を向けてくださったことが本当にありがたかったです。

板津委員

味方はいっぱい作った方がいいです。一人で背負い込まない方がいいと思います。

岡田会長

では、今度は奥村さんにお聞きしたいんですけども。コロナの関係で、いわゆる企業の CSR みたいなものがかかなり積極的に展開されるような、取り組んでみえるような企業さんも増えてきていると思いますし、また一方で SDG s の関係で持続可能な取り組みをしている企業さんも増えてきているんですけど、企業の部分と高齢者支援の部分で何か新しい状況はないですか。

奥村委員

高齢者支援、企業さんは疲弊しちゃうし止まっちゃう。今、商工会議所は商工会レベルの仕事ばかりですね。商業事業者は昨日までで時短営業が解除になりました。今日からまた協力金の申請が始まっています。朝からそういう問合せでバタバタしています。毎回県がやって国がやって、一連ではなくそれぞれ区切っているんです。毎回申請しないといけない。やり方が毎回変わっています。そういった情報がうちにも突然来ます。直近では今回の緊急事態宣言の一時金で、それぞれにお金が出ますよという。協力支援金というものでこれは会議所が証明をするんです。事業所があるという。これが2週間前から始まって、連絡が来たのが1週間前で会議所も非常に翻弄されている状況です。だいたい皆さん方はどこに行っていないかわからないので、うちにみえます。そういった方たちに対して知りませんとは言えませんので、時間をかけて申請先に誘導するとか、うちが出来るのは補助金申請だけですが、現在は商工会の事業所の支援が大半を占めています。これは、大きい会議所も一緒です。そういった状況で日々過ごしています。なかなか余裕がなく。会議所は今年30周年を迎えますけれども、ここ30年で500事業所が減っています。ですから、創業塾を行っていますけれども、この前は10名くらいみえました。普段ですと1名から2名で、10名は多いんです。コロナの中で新たに知恵を出して作ろうといった方に対して支援をしていく。高齢者の方も事業所を作ろうと2名ほどみえまして、そのうち1件は作られたと聞きましたけれども。

それから、タクシー業界は厳しいことは皆さん承知のことですけれども。犬山の駅前も夜のタクシーが少ない。1台とか2台とか。夜にいてもお客さんがいないので昼にシフトしている。いずれにしても、全ての事業所にとって大変な時期です。

岡田会長

はい。ありがとうございました。経済界も厳しそうですね。そんな中でも社

会貢献をしたいという企業が出てくることを期待したいですね。
では、介護サービス事業所の立場として矢島さん、いかがですか。

矢島委員

そうですね、先ほど河村さんがご発表された中の親和領域との繋がりという点では、各地域にある介護施設やケアマネの事務所はまさに地域の住民の方といろいろ繋がりが活発なのが理想だと思うんですが、じゃあそれがどんどん広がっていくかということと頭打ちな感じがして。市内でも4、5年前は認知症カフェというのを各施設がやるのがドーンと増えたんですが、なかなか継続できなかったっていうのがありました。今、何でかなと思うと、事業所側の一方通行というか事業所の単独の力で何かやろうとすると無理があって、ちょっと下火になったところで、コロナでとどめが刺さってなんて思います。実は来月、介護保険の3年に1回の報酬改正があるんですけども、その内容をみると、前から言われていたんですが、介護事業者は地域住民と連携を密にとってというのが条件のように出てきているんですね。一例としては避難訓練なんかも、事業所の中でやらずに地域の住民に手伝ってもらっていか避難するかということをやいなさい、と。介護事業者としては住民の方々と接点を増やしたいとは思っているけれど、なかなか動きができない。心身の余裕がなかったりするの現状かなと。

もうひとつは、健康福祉部への伺いですが、国の定めている介護予防日常生活支援総合事業では、住民主体の介護サービスを自治体が支援するB型という枠組みがあります。基準緩和型サービスというのは現在もやっているんですけども、B型の取扱いを今後どうしていくのか、所属している介護サービス事業者協議会の中でも話に出るんです。犬山はB型がずっと無いままなのか、などのレベルで終わっているんですけども。そろそろ見通しとか方針が伝わってもいいんじゃないかなと思います。実際にはあるんでしょうか。

岡田会長

答えにくい部分もあるかと思いますが、どうですか。

事務局
(谷本)

B型の仕組みとしてはもちろんあるので作ることはできるんですけど、必要性というか、作っただけで終わってしまうと同じなので、どのように介護予防を進めてどうB型にもっていくかということが、正直、犬山市として中できちんと話し合われていないという現状があるので。もちろんすぐには作れるんですけど、うまく活用していくにはしっかりとそのあたりを決めておかないといけないというところなんです。

岡田会長

そういうことを気にしてみえる方もいるということは承知していただきたいと思います。

よろしいですか。では、先ほどヤギの話も出ましたが、松本さんいかがですか。

はい。私も、何もわからないままここに関わらせていただいたことがご縁で、いぬやまコミュニティ農園、これは犬山市の委託で高齢者生きがい活動促進事業をさせていただきました。実は、私どもは子ども中心の活動ですから、特に高齢者ということは考えてなかったんですけども、多文化の人達もそろそろ具体的に介護サービスを受けてみえたり、お世話になったりしている方も出てきています。それと、外国の人自体も介護の職に就くという例がだんだん増えてきているんです。正式なヘルパーの免許は取れなくてもお手伝い程度ですが、働き手として介護の世界に入ってくることがすごく増えております。そういう意味で、多文化の人たちもという言葉が自分には入って、ずいぶん勉強させていただいたんですけども、結果的に農園を開かせていただいて、農業自体を改めて見直すことになりました。

先ほどの河村さんの話にもありましたように、農業だけではなくて地域住民の方との触れ合いとか、もうちょっと進むと出荷したりとかして、それが働き手育成にもなったり。実は、今朝、昨日雨が降ったのでヤギが大丈夫か、俺が現地に行くという電話が入りました。80 近い方ですけども、たまに手伝ってくださるんですよ。それまではこちらが声をかけていついつやりますので来てください、と。でも、今日はご自分から自発的に関わってくださったな、と。種まきしかり畝の作り方とか、今中心になって教えてもらっている人は高齢者です。前期の型ではあるんですけど、68 くらいまでの方が中心になってやってくださっている。今までにも関わってくださっていた方ですが、それプラス新しく始めた方がサポートに、と言って。私たちは、農業は素人ですけども、その中で回し始めてくださっているのが現状なんですけれども。

改めて、私たちも今まで多文化、多文化と言ってきましたけれど、多文化っていうのは本当に一部なんだなと。共生っていうのは全部で、多文化っていうのは一部のことを言っていたんだな、と。外国人も子どもから大人まで年を取ります。日本人も一緒なので。外国人もいろいろな国があります。全く同じなので、改めて新しいことからヒントをいただけて、協議体みたいなものもカフェみたいなものも青空で出来るといいな、と。コロナで難しいんですけど。今、実際集まっているものですから、工夫すればお手洗いも完備しましたし。お手洗いも、近所の散歩の方が貸してということも出始めたものですから。農業っていうのは全部を繋げてくださる。でも、そこに介在するのは人なので。人が人を繋いでくださって、いろんなジャンルを繋いでくださるんだということを実感しています。名経大の学生さんもヤギに会いたいと言って来てくださっていて、そのうちまた来てくださると思いますが。お披露目を 20 日に行ったんですけど、お披露目前に繋いでいたら近所の子どもたちが集まってきていて、場があるというのはこういうことだな、と改めて感じました。コロナが少しずつ落ち着いてくることを願いつつ、広げて

いきたいなと思っています。

岡田会長

チラシが余っているようなら、大学に置いておきます。
じゃあ、森岡さん何かあればお願いします。

森岡委員

はい。活動ですが、買い物支援を始めたくて町会長や民生委員の会長と相談をしていた時にコロナになってしまっただけです。つつじヶ丘の民生委員にもいつやるのかと催促されたんですけども、コロナのことで慎重になられて、もう少し待とうと1年経ってしまったんですね。コミュニティの事業にしても、拍子木隊とかあるんですが、町会長さんにお任せをして強制ではなくやってみえるところが半分以上、子ども達と一緒にやったださんなんです。なるべく静かに、でもみんなが元気が出ることをというふうでこの1年は考えてやってきました。

ここ2ヶ月役員会をやっていなかったんですが、先週、役員会を3ヶ月ぶりにやって、これからの事業について、目白押しなんです。4月花祭り、5月ごみゼロ運動、ソフトボール大会とかどんどん予定が入っているんですが、それをどうするか全員に意見を聞きながらしたんですが、やらないという方向ではなく、先ほどにもお話があったんですが、どうやったらそれができるかということを考えてやっていこうじゃないかということ。ただ、ソフトボール大会はバットを共有するとか、マスクもそうだよねとか、ベンチを拭きなきゃとか言う意見も出て。ただ、ごみゼロはやります。今まででしたら5ヶ所地域に集まって一斉にというふうだったんですけど、家庭からゴミを拾ってそこまで来ていただく、長時間にかけて待っていてというやり方に変えればできるねということ。あと、一番メインの夏祭りも今年はやります。そんな感じで、少しずつですけど、どうやったらやれるだろうねというふうに皆さんも方向が変わって来ているというところ。ですから、買い物支援も今年はやりたいと思っていますので。

岡田会長

じゃあ、堀場さん、シルバー人材センターの生涯現役促進地域連携推進協議会のことも含めてお願いします。

堀場委員

はい。生涯現役促進地域連携推進事業は、厚労省の委託を受けて行っているもので、3年間のうち今2年目、来年1年の委託事業となります。もともとは、犬山市とうちが事務局になっておりまして、協議会の構成員としましては、商工会議所、社会福祉協議会、観光協会、JAに入っていていただいて協議会を設置しております。その中で、ご存知のようにシルバーの南にハローワークがありまして。実際に65歳以上の方がハローワークで就労を求めてもなかなか雇用には繋がらないというか、難しいねという話をハローワークでもされるそうです。近くだからシルバーに寄って行こうかなということでお越しいた

だいているんですけども。ただ、そういった方というのはシルバーの働き方とはちょっと違うことを求めてみえる部分があるんです。

シルバーっていうのは、皆さん同じように共同でワーキングシェアしながらやっていただく仕事になるもんですから、正直言って実入りはそれほど多くないんですけども。ハローワークで仕事を求められる方っていうのは、一義的にはある程度稼ぎたいという思いがある方が多いものですから、なかなかシルバーの方ではうまく仕事の斡旋が出来ないなという実情がありまして。その中で協議会を設置したことによりまして、ここに職員も3名おりまして、就労相談であったり就労斡旋という業務をここ2年間でずいぶんこなしてきております。来年は、そういったものをうまく注力して就労につなげていく、現実的には20名くらいは就労に繋がっているんですが、そういった部分を活用できればと思います。ゆくゆくは、これも3ヶ年なものですから。シルバー人材センター自身も会員がどんどん減っていきまして、今800名ぐらいです。そのうち500名が男性、300名がというようになっていますが、男性会員がなかなか増えていかない。これは、ご存知のとおり定年延長やいろんな社会情勢が影響していますので、男性の方を会員としてお招きするのは難しいかという環境があります。将来的には女性の会員の方を増やして、家事援助的な業務がメイン事業になるのかとも思いつつ、男性会員は派遣という形態もとれるようになりまして、この協議会が終わった後には派遣事業をうまく展開できるように、今、協議会で働いてみえる方をシルバーにお招きしてなんとか繋げていければなど。高齢者の方も国が考えているものでは労働力という位置づけになっていますので、うまく循環できるような形で協議会の実施やシルバーの事業として移行できればと考えております。以上です。

岡田会長

ありがとうございました。

どうしても、今日はコロナの話題が出てきます。コロナだからできなかったこと、コロナでもできた、コロナだからやろうとしたこと。今後社会が大きく変わってきます。これまで無理だと思っていたことが当たり前のこととなってきます。

今日、最後に加藤さんにお聞きしたいのは、いろいろな地域の活動をご存知ですので、こんなことをやっている、こんなことがやれる、こんなことをやろうとしているような、これからの参考になるようなことがあれば聞かせていただきたいなと思っております。

加藤委員

はい。ひとつは、先ほどオンラインの話。その時気付かなかったんですけど、タウンミーティングを市役所がYouTubeでやられていて。原さんもいらっしやいましたね。今年度一番大きく変わったのは、リモートというかオンライン化するっていうことで。河村さんの話でいうと集いの場のマップがあるじ

やないですか。あれって、歩いていけるぐらいの距離にみんなが集まれるサロンだったりちょっと集まれる場づくりだったりというのは、実はどの町でもやられていて、福祉系のものもそうじゃないものもある。それでよく依頼される仕事として、地元の地域の集まる場所を作るということだけではなくて、場づくりの講座みたいなものをよく依頼されるんです。

場づくりの講座といってもなかなか集まりにくいじゃないですか、人が。で、勝手に場リスタ、コーヒーのバリスタのバを場所の場にかけて、場づくりマスターと名付けて、場リスタ養成講座というふうにしたら結構申し込みが増えまして、いろんな町で場リスタ講座をして。集まっていたいて最初に、ゲームというか少し和んでいただいて、みんなで話をしたりとか時には真面目に何に困っていますかみたいな話をしたり。そういうことやっていくと、だんだん、ただの場だったんだけど、こなすだけの場だったのがちょっとおもしろい、工夫次第でワクワクするような場になるよねということで。

講座にすると何が違うかという、既存のサロンの運営者だけではなくて、若い人が、実は何かやりたいと思っていて、気になって来ました、と。そうすると、若い子が自分で自分の住んでいる地域の空き家を借りてリノベーションをして自分たちの居場所を作り始めたんです。それをやろうと思いつくまでに、今までやっているベテランの地域の人ところに学びに行ってお手伝いをするんですよ。だから、いつも来ているメンバーじゃなくて若い子が来るものだから、その地域のメンバーも刺激になって、若い子も嬉しい、で、今度コラボする？なんて。若い子が始めたところは、子どものためのプログラミング教室だとか、ちょっと今ふうの攻めの企画をしていて、一方で、従来からあるお茶飲みのところはお茶飲みで。一緒にコラボして相互に行き来したりしているんですね。それがすごくいい感じだというのがあって。あとは、使っていない喫茶店をリノベーションして縁側カフェと名付けて、そこに来てくださる高齢者の方が、電気料金が払えんなんて相談すると、その主任がじゃあ私が一緒に行ってあげる、なんてことがあったりして、市役所の福祉課に行くよりそこに行った方が早くて、福祉カフェみたいな。

そこにきて、コロナのような状況になったので。

今年も場リスタやってくださいってお願いされたんだけど、いや、今は場リスタやっても、集まれない。今日学んで明日使えるかといったらやれないことになっているからって。それで、今年はオンラインに切り替えようということで、オンラインで場を作るっていうことをやったんですね。そしたらめちゃくちゃ盛り上がりまして。

ある町でやったオンライン場づくり 1 年生っていう講座なんか、そこで皆でこんなふうにするとうまくいくっていうやり方を学んで。そうすると、その次の回にちゃんと主催者さんが同窓会を開いてくださった。その同窓会に集まった人たちが、じゃあ次は自分たちでやってみようということで、今度、自分たち主催のものをやるらしいです。

というように、学んだこととかをどんどん展開していく時に、今まではリアルでやれたんだけど、できないことをオンラインに広げていく。そういう話が出ると、大概そんなの年寄りには無理だって言う人がいるんですよ。だけど、よく考えてみると、お年寄りでもご家族、息子さんの皆さんも一緒にいらっしゃったり孫がいたり。めちゃくちゃ使えるわけですよ、こういうの。ご家族や仲間が手伝ってくれたり、原さんが出られたタウンミーティングのように、市役所に来ていただいて Zoom に繋いでもらったり。よその町ではタブレット用意するんで繋げない人は来てくださいとか、繋ぐのに不安だと電話をすると行って、個別で練習しましょうと事務局がやってくれる。

一番大変なハードルを越えるところをみんなで支え合って超えてしまうと、一番ちょっと無理だねって言ってた人が一番はまって、その後スマホを買いに行ったりする。なんというか、やってみた者勝ちっていうのかな。

それが一つ。僕の経験では、オンライン化していくハードルを一緒に超えることと、そういう人材育成からだんだん広げていく、攪拌していくっていうこと。

もう一つは、さっき会長が言われていたんですが、一番去年早く売り切れたのは有料の講座で、SDGs の。カードゲームなんです。僕は SDGs のカードゲームのファシリテーターの資格も持っていて。

どういうことが起きたかという、今までは、普通の市民の方が申し込む講座が多かったのが、今はほとんど企業の人なんです。それをやって、申し込んでくるのは企業と学校の先生。先生が、SDGs を学校で教えたいんだけどようわからんって。僕がやっているやつは国連の職員もやったゲームなので、誰がやっても、これが SDGs の本質かとすぐわかるんです。なので、それはもう本当に、募集してすぐに売り切れるっていう世界で。

何が起こるかって、そこで知り合った人たちは、犬山市役所が仮に主催したとしたら、犬山市の主催の他の集まりにも関心を持ってくれるようになるんですよ。あれって結局当事者になるっていう。私が起点っていうのが SDGs の本質だから、私が起点って言われてて今日もらったチラシの中に、来週農園があるらしいぞとか、ちょっと行ってみるかっていう人が何人かいらっしゃって、それが次のアクションに繋がっていったりしているの。

今や吉本興業でさえ SDGs に取り組んでいます。どの企業さんにとっても、SDGs っていうのは、ビジネスのチャンスとして導入しなきゃいけないと思っている箇所は多いんですね。だから、さっき CSR の話が出たんですけど、CSR というとどっちかという、企業の社会的責任だから、まあうち儲けてますけど、これぐらい地域にやっけてあげますよとか、ちょっといい顔したいっていう部分は少なからずあるんですね。

だけど、今、CSV っていう、Creating Shared Value、クリエイティブは創造する、シェアは共有するで共通の価値をつくり出そうという時代になってきてる。いろんな会社が SDGs 然りその地域の中のコミュニティづくりに寄与

すること自体、それからそれを本業で解決しようっていうのが増えてるんです。つまり、今までは何かのイベントがあると人数出しますよとか、ちょっとお手伝いしますよとか、うちの敷地使っていていいですよみたいなのが多かったんですけど、そうじゃなくて、例えば、今困ってる、例えば台湾の IT 大臣は、コロナでマスクが買えないってことに対してどこに行けば買えるかというシステムを作ったじゃないですか。あの人は民間企業のプログラマーなんです。そういうような、自分の本気度で社会の課題を解決して、それをビジネスにしようというのが、CSV の考え方で、そういう企業さんってやっぱ増えてきてるから、多分いろんな案件が今市役所のいろんなセクションに持ち込まれてると思うんです。大手の企業はそれがチャンスだと思っているんで。でもなかなか今までの商業慣習でそういう公益なところに踏み込めてないからお互いにちょっとギャップがあったりするんで、そういう相談もすごく増えています。どうやって公益的な事業をうちの会社がお手伝いできるでしょうかっていう相談も増えてきてるので、その二つをさっき言った場リスタの話とオンラインの話、それから CSV と SDG s の話。これは役に立ちますかね。

岡田会長

お話をありがとうございました。

何かこんな意見があったらお伝えいただければと思いますが。

それでは次第 3 その他に移りますけれども、何か事務局からありますか。

事務局
(蒔澤)

はい。1 点、自立支援型地域ケア会議なんですけれども。この協議会で例年報告をさせていただいて、今年度の 1 回目で、コロナで止まっていますというご報告でした。現状ではまだ止まっている状況なんですけれども、令和 3 年度に向けましては、だんだんワクチンの接種の話が進んできていることでもありますので、高齢者の方がワクチン接種が終わった段階で再開できればというふうに事務局としては考えておりますので、また再開しました折には、結果報告をさせていただきたいと思います。以上です。

岡田会長

他にはよろしいですか。

はい。ありがとうございました。先ほど、SDG s の話もありました。協議会でも SDG s は避けて通れない話題になりそうです。いよいよ、2021 年から行動の 10 年とされていますので、実際動かない団体はないようなことを言われています。

その中でもいろんな書物を読んでいる中で、地域の持続可能性を試みるという先進事例にこんな言葉が載っていました。地域の自然治癒力を育む。市民の方が自ら課題に向き合って自ら課題に取り組むことが、その地域の自然治癒力を育むとていうことなんだろうと。ただ、そこには施す処方箋が必要だということも書いてありました。今日の議論が、その処方箋になればなと思

います。

それでは、事務局にお返ししたいと思います。

事務局
(上原課長)

ありがとうございました。以上で、本日の協議会を終了いたします。

次回は令和3年6月頃を予定しておりますので、近くなりましたらご連絡をさせていただきます。

最後にお帰りの際で結構でございますが、皆様の委員としての任期が令和3年の11月30日までとなっております。新年度ですけれども、もし所属の団体が変わったとか役職等に変化がございましたら事務局まで教えていただければありがたいなと思いますのでよろしく願いいたします。

それではご多用の中ご協議いただきまして、ありがとうございました。

お気を付けてお帰りください。

令和 3 年 4 月 19 日

上記に相違ないことを確認する。

(署名)

(署名)